

平成30年度
実践力養成型(寺子屋式)
インターンシッププログラム
プロジェクト紹介



Life is a choice...

平成30年度 実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ エントリーされる皆さまへのMessage

＜まずは観察してみよう＞

各受入先さまにいただいたミッションには、「郷に入っては郷に従え」の心構えをもって取り組んでほしいと思います。まずは、その地域の文化、企業文化、組織文化を観察してみるところから始めましょう。

あまり張り切りすぎて、最初から突っ走ってしまわないように。地域の方々や受入先さまとの信頼関係を少しずつ築く中で、学生の身分や発想を活かして、ミッション達成に向けて邁進してほしいと思います。



徳島大学COCプラス推進本部
推進監 玉 真之介



徳島大学COCプラス推進本部
推進監 山中 英生

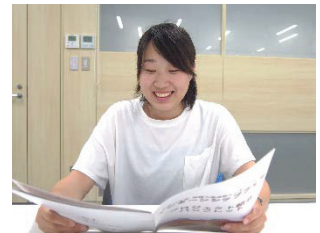
＜つらいトレーニングでビッグになれ！＞

このインターンシップの意義は、「役に立つ」という経験ができることでしょうか。大学では、学んだことを「誰のため」に使うのかを知る機会はまだ少ないのが現状です。ぜひ、このインターンを通じて社会に身をおくことで、お客さまと時間の存在を体感してほしいと思います。また、インターン中に関わりをもつ多様な大人たちと、ぜひつながりをもっておいてほしいと思います。将来、実際に仕事をできるようになったときに必ず財産になります。

最後に、このインターンは、言わば「社会に出るための基礎トレーニング」です。今の自分が「できることを知る」絶好の機会です。つらいトレーニングになるかもしれませんが、ビッグになるために頑張れ！

＜見える景色が変わるはず＞

私はインターンを通して、知らなかった自分、モノの見方…たくさんの「知らないこと」に出会いました。私にとって、そうしたことに気付かずにいるのは怖いこと。ぜひ、このインターンに「ガチ」で取り組んでみてください。きっと、見える景色が変わります。



徳島大学総合科学部4年
平成28年度上勝学舎インターン生
清水 杏咲



徳島大学理工学部3年
平成28年度(株)QLiPインターン生
松田 悠希

＜主体的に取り組もう＞

インターンをやったよかったのは、実際に働くとはどういうことなのかを、具体的なイメージを持って考えられるようになったこと。みんなにはぜひ、「今」やることに、後の仕事に活かすつもりで取り組んでほしいと思います。インターン、大学の講義、サークル、アルバイト…たくさんのやるべきことがあるかと思いますが、うまくセルフコントロールして取り組んでみてください！

＜新しい気付きが得られました＞

「思考」には2種類あると思います。広げ張り巡らせる思考と、なぜそうなのかと掘り下げ深める思考です。広げ続けるだけだと浅くなるので、広げた上で深めることが大事。これができるようになりました。今後の人生を生きていく上で「思考すること」の必要性や新しい気付きを得られたこと、またそういうことに気付かせてくれた大人や仲間と出会えたことが私にとって大きな経験となりました。



徳島大学総合科学部3年
平成29年度(一社)Disportインターン生
山川 真生子

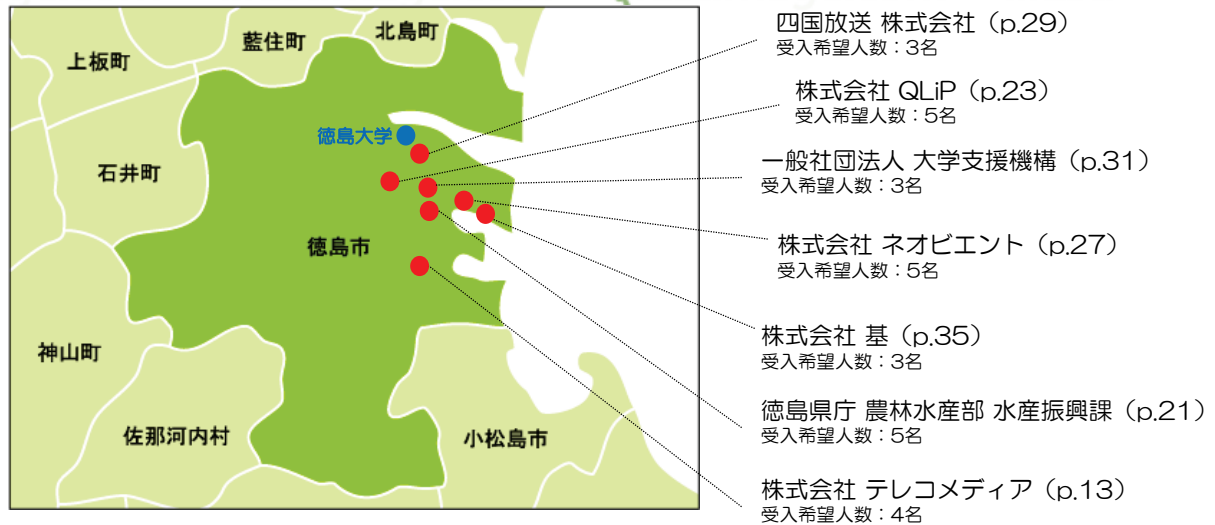
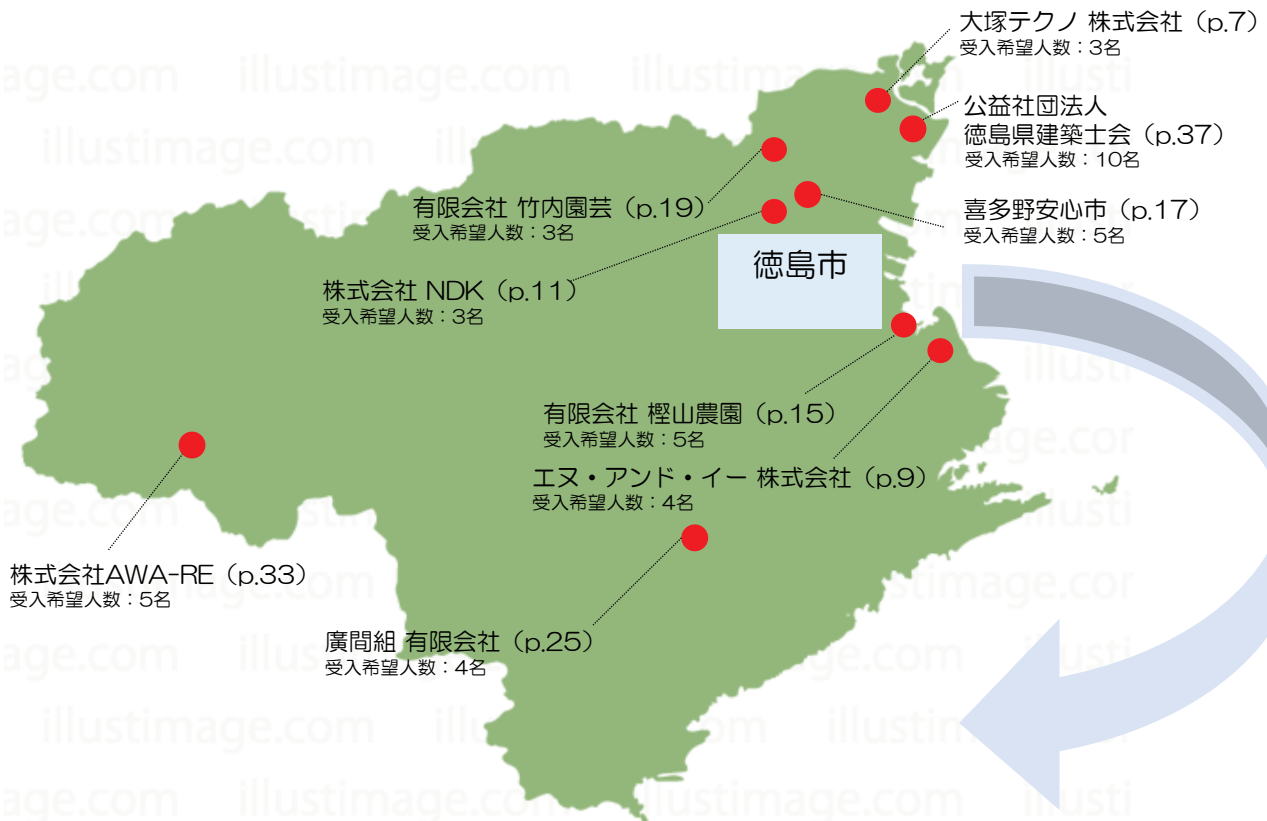


徳島大学工学部4年
平成29年度大塚テクノ(株)インターン生
森下 陽裕

＜ぜひチャレンジしてみてください＞

「いつも似たような生活で退屈やから何か新しいこと始めたいなあ…」そういった想いで僕はこのインターンシップに参加しました。大学では絶対に味わえない経験ができ、全てが新鮮で、自分の成長も感じられるインターンシップです。気になる方はぜひ参加してください。参加後の自分が別人のように感じるのではないかと思います。

平成30年度 実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ 活動拠点一覧



<平成30年度>

県内16機関、70名のインターン生を募集中！

<平成29年度>

県内15機関、54名で実施

- 学年別（1年生5名、2年生17名、3年生27名、4年生5名）
- 学部別（総合科学部29名、工学部及び理工学部22名、生物資源産業学部3名）

<平成28年度>

県内7機関、35名で実施

- 学年別（1年生4名、2年生5名、3年生24名、4年生2名）
- 学部別（総合科学部18名、工学部及び理工学部17名）

ここが違うよ! 実践力養成型(寺子屋式)インターンシップ

★長期インターンだからこそ得られる経験や学びがあります! 長期実践型インターンを“激しく”おすすめする理由★

- ①『こんな人になりたい!』長期実践型だからこそ組織での働き方や仕事をするこの意味が見えてきます。自分の未来像を描いてみよう!
- ②『チャレンジする仲間との出会い!』学部学年関係なく目標達成に向けて互いに切磋琢磨しながらゴールを目指します。チームで仕事をするのを知ろう!
- ③『いろんな大人との出会い!』受入担当者以外にも色々な大人と接する機会があります。新しい価値観に出会いにいきましょう!
- ④『入社数年後でも任せられない仕事に挑戦!』経営課題から抽出したプロジェクトに取り組みます。仕事の成り立ちを知ろう!
- ⑤『自分が見える』自分の課題を知り、また強みを活かせる機会があります。これからの大学での学びや経験することの意義を見出そう!



HPIはコチラ

インターン開始までの流れ

Step
1

インターンシップ フェアに参加

【4月26日】

※フォローアップフェア
【4月28日】

受入企業・団体がプロジェクトを持ち寄り、学生の皆さんにインターンプロジェクトのプレゼンテーションを行います。ブースに分かれての個別説明会もありますので、興味のある学生は是非ご参加ください。参加を迷っている学生、いろんな社会人の生の課題を聞いてみたいという学生の参加も歓迎です。

★インターンシップフェア(定員150名)(要予約:下記問合せ先まで)

4月26日(木)13時~18時(予定) 徳島大学地域創生・国際交流会館5階 フューチャーセンター

※フォローアップフェアの開催※

インターンシップフェアに参加できなかった方のためのフォローアップフェアを開催します。インターンシップフェアのプレゼン動画上映や担当スタッフからのプロジェクト紹介を実施予定です。

★4月28日(土)13時~ 徳島大学地域創生・国際交流会館3階 共用室301

Step
2

エントリーする 【5月17日締切】

※エントリーシート
書き方講座【5月10日】

エントリーシート(COCプラス推進本部所定の履歴書)を作成して、下記COCプラス推進本部に提出してください。エントリーシートの書き方を解説する「エントリーシート書き方講座」も実施しますので是非ご参加ください。

★エントリーシート提出締切り:5月17日(木)12:00(正午)

★エントリーシート書き方講座

5月10日(木)14時30分~15時30分 徳島大学 地域創生・国際交流会館3階 共用室301

※15時30分からはインターンシップ修了生との交流会を実施します。交流会のみの参加も歓迎です。

★エントリーシートは、COCプラス推進本部にてお渡しします。

★エントリーに関する相談を随時受け付けています。ガイダンスやフェアに参加できなかった方へのプロジェクト紹介なども行いますので、お気軽にCOCプラス推進本部までおこしください。

COCプラス推進本部で
随時 相談受付!

Step
3

マッチング (受入先との面談)

【5月中旬~5月下旬】

受入先担当者とのマッチング面談を行います。

★エントリー締切り後、プロジェクトごとに日程調整を行い、随時受入先担当者との面談を実施します。

面談の形式や場所は受入先ごとに異なります。

★「面接」ではなく「面談」です。受入先に対して質問・疑問があれば学生の皆さんからも質問しましょう。

Step
4

履修登録する

【6月15日締切】

インターンシップ参加者は教養教育科目「実践力養成型インターンシップI」の履修登録を行ってください。

★第一次履修登録締切:6月15日(金)17時

★「実践力養成型インターンシップI」はWebでの履修登録は行えません。

5月1日(インターンシップフェア後)~6月15日の間にマークカード提出にて、履修登録を行ってください。

※マークカード入手方法:教養教育4号館1階 教養教育係にて入手

マークカード提出先:地域創生・国際交流会館3階 COCプラス推進本部に提出

★専門科目「短期インターンシップ」受講者は短期インターンシップの枠組みを利用したの参加が可能です。

「実践力養成型インターンシップI」の履修登録の必要はありません。

Step
5

事前研修を受ける

【6月中旬~7月中旬】

インターンシップに参加する前に、事前研修を受講します。(必修)

★事前研修に関して...

通算3~4回程度の事前研修を実施します。

●自己分析テスト(効果測定)の実施 ●マインドセット・社会人基本動作研修 ●チームビルディング研修

●プロジェクトプランニング研修 等

※研修の内容は変更の可能性があります。

Step
6

インターンシップ スタート!

【8月~】

いよいよ、受入先にインターンシップスタートです!

★開始時期はプロジェクトごとに多少前後します。

注意書き
問合せ先

※留学生・障害のある学生の方は、受入先の受入条件を確認する必要があります。

エントリー前にお問い合わせください。

※「実践力養成型インターンシップ」に関するお問い合わせ・相談・履修のマークカード提出は下記までご連絡ください。

徳島大学COCプラス推進本部

徳島大学常三島キャンパス内 地域創生・国際交流会館3階

TEL: 088-656-9885 FAX: 088-656-9880 (担当: 森脇、川崎)

MAIL: coc-plus@ml.tokushima-u.ac.jp



H30年度のスケジュール



Q&A

エントリーについて

- Q: 履修登録期間中に登録できませんでした。履修登録をしなくてもインターンシップに参加できますか？
 A: できます。しかし、単位は修得できませんのでご注意ください。
 単位に関係なくチャレンジしたいという意欲的な学生の参加も大歓迎です。
 過去2年間でインターンに参加した学生89名のうち27名（約30%）が単位関係なくチャレンジしています。
- Q: インターンシップフェアに参加できなかったのですが実践力養成型インターンシップに参加してみたい。
 Q: エントリー先の選び方で迷っています。どうしたらいいですか？
 A: COCプラス推進本部で随時相談を受け付けています。プロジェクトの紹介やエントリー先の相談にも応じますので、お気軽に下記事務所までお越しください。

エントリーシート面談について

- Q: エントリーシートはどこで手に入りますか？
 A: エントリーシートは、COCプラス推進本部所定のフォーマットがあります。
 COCプラス推進本部にてお渡ししますので、下記事務所まで受け取りにきてください。
 エントリーシートの提出締切りは5月17日です。COCプラス推進本部まで遅れず提出してください。
- Q: 面談の際の服装や形式が気になるのですが...
 A: 受入先によって面談時の服装（スーツ・私服）や形式（個人面談、グループ面談、ワークショップ）なども異なりますので、エントリーの際にご確認ください。

インターン開始後について

- Q: 困り事や相談したいことがあるのですが、どうすればいいですか？
 A: COCプラス推進本部で随時相談を受け付けています。事務的な手続きから、インターンシップ活動中の困り事まで、お気軽にご相談ください。
- Q: 受入先への交通手段は決められていますか？また交通費などは出ますか？
 A: 保険の適用範囲の関係上、徒歩・自転車もしくは公共交通機関を利用した移動となります。原付・バイク・自動車での通勤は一切認められません。
- Q: インターンシップ開始後の詳しい日程が知りたいのですが...
 A: 受入先ごとに日程が異なります。
 また、参加学生の予定等も考慮しながら日程を決定する受入先もありますので、エントリーやマッチングの際に受入先に確認してください。

参加する際の注意点

<誓約書について>

インターンシップ中にトラブルが発生した際に備え、受入先との間に制約を結びます。所定の誓約書に記入し、受入先に提出してください。（誓約書は、受入先もしくはCOCプラス推進本部よりお渡します。）

<保険の加入について>

インターンシップ中の事故に備えて、インターンシップ参加者は「損害保険」と「損害賠償責任保険」の2つの保険に加入する必要があります。

①損害保険

徳島大学の全学生が入学時に「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」に加入しています。
 ただし、4年間契約のため、在学期間が4年を超えている学生は期限切れの可能性があります。
 ※期限が切れている学生は、教養教育4号館1階の学生支援課で手続きをすれば再加入が可能です。

②損害賠償責任保険

工学部・理工学部学生は全学生が入学時に「学研災付帯賠償責任保険（通称：学研災インターン賠）」に加入しています。
 ただし、4年間契約のため、在学期間が4年を超えている学生は期限切れの可能性があります。
 工学部・理工学部以外の学生は必ず自分の加入状況を確認してください。
 ※期限が切れている学生や未加入の学生は、教養教育4号館1階の学生支援課で手続きをすれば加入が可能です。
 ※学研災インターン賠に加入していなくても、大学生協が提供する「学生賠償責任保険」に加入していれば問題ありません。
 「学生賠償責任保険」への加入状況の確認や加入申し込みは大学生協事務所で行えます。

<守秘義務について>

インターンシップ先での活動は企業機密や個人情報に触れる場合がありますが、このような情報を外部に漏洩したり公開したりすることは、社会人としての信用を問われるだけでなく、法的責任を課せられる場合もあります。
 無許可での資料のコピーや、外部への持ち出し、Webへのアップロードなどは決して行わないでください。

－ 目次 －

7 ペ ー ジ	大塚テクノ 株式会社 新時代に向けた働き方改革 社員満足度向上プロジェクト	
	エヌ・アンド・イー 株式会社 人と自然を技術でつなぎ、 地産地消・地元地域の さらなる活性化を目指す	9 ペ ー ジ
11 ペ ー ジ	株式会社 NDK 知られざる町工場の魅力を 発信するプロジェクト	
	株式会社 テレコメディア キャリアバイト2.0	13 ペ ー ジ
15 ペ ー ジ	有限会社 樫山農園 農園オリジナル商品の企画と 販売スキームを構築する	
	喜多野安心市（エイゼン建設 株式会社） お店を舞台に大実験！ “安心市スタイル” 店舗運営の方法を探る！	17 ペ ー ジ
19 ペ ー ジ	有限会社 竹内園芸 農家さん向けサポートサービスの 体制を構築する 1st stage	 
	徳島県庁 農林水産部 水産振興課 漁業アカデミー稼働！ 徳島の水産業担い手募集PR	21 ペ ー ジ

23
ペ
ー
ジ

株式会社 QLiP
プログラミング教育が切り拓く
子ども達の未来
小学生向けの授業カリキュラムを開発しよう！



廣間組 有限会社
RRPG (リアルロールプレイングゲーム) 型
ツアーを開発せよ！ vol.2

25
ペ
ー
ジ

27
ペ
ー
ジ

株式会社 ネオビエント
「とくしまマルシェ」を
徳島を代表する
地域ブランドに育てよう！



四国放送 株式会社
ワカモノが夢中になれる
番組をつくろう！

29
ペ
ー
ジ

31
ペ
ー
ジ

一般社団法人 大学支援機構
地域活性化のために
大学とクラウドファンディングの
果たす役割を創出しよう！



株式会社 AWA-RE (アハレ)
地域の良さを包み込む！
世界農業遺産認定地で
新たな”食”を開発！

33
ペ
ー
ジ

35
ペ
ー
ジ

株式会社 基
地元徳島の産品を海外へ。
「地域商社」のトリセツを発刊せよ！



公益社団法人徳島県建築士会
増田友也モダニズム建築群と
美しい景観が共存する
わがまち鳴門の魅力を伝えよう！

37
ペ
ー
ジ

新時代に向けた働き方改革 社員満足度向上プロジェクト

大塚テクノ 株式会社

徳島市鳴門市瀬戸町明神字板屋島120番1

どんな会社？

大塚グループでは、食品・飲料だけではなく、新薬の開発、医療機器の開発などの医療関連事業も行っています。当社はこれら医療関連の領域にて、合成樹脂成形製品を「高い技術力」「クリーンな環境」「優れた品質」のもと製造し販売を行なっています。

当社の歩みは、医療品の輸液容器プラスチック部材の開発・製造から始まりました。現在では、国内だけに留まらず、海外へも生産拠点を拡大しています。

また、医療品のプラスチック製造で培った成形技術を活かし、LEDパッケージ製品の製造やリチウムイオン電池の安全装置の製造など、電子分野への参入にも成功しています。



チャレンジしていることは？

大塚テクノ株式会社では、2年前から本事業インターンシップを通じて取り組んできました。

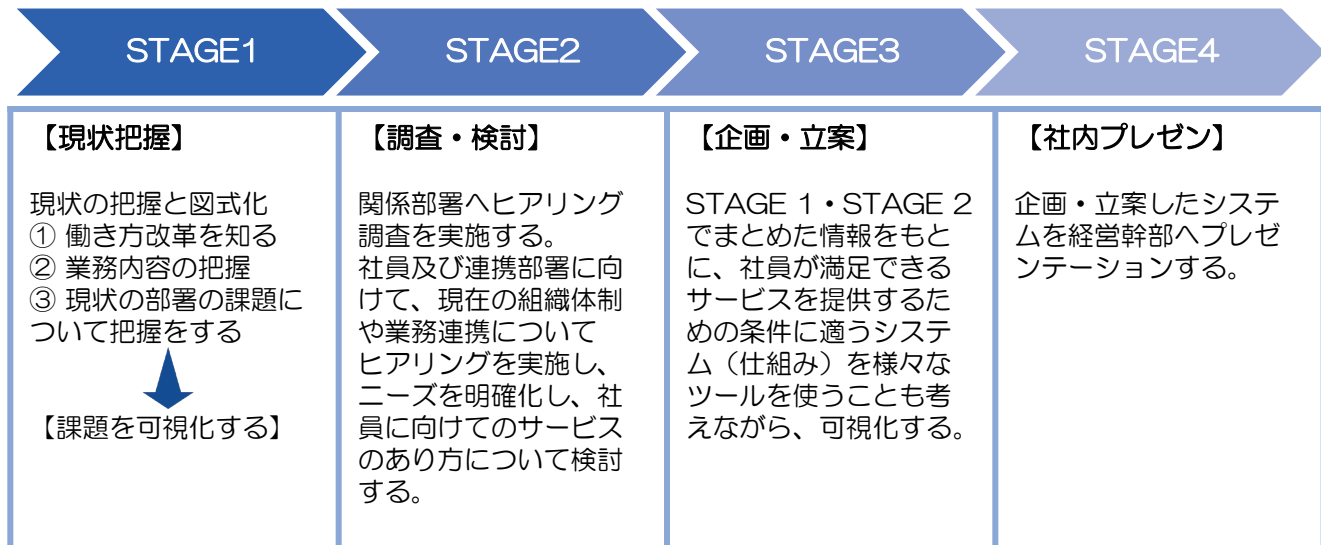
(平成28年 人材採用パンフレットの作成 / 平成29年 健康マイレージの策定)

そして今年度は、社員満足度の向上、働きやすい職場環境への取り組みとして生産性向上、業務効率化をこれからの時代に適したスタイルにあわせ変革を進めていきたいと考えています。

現在は業務の効率化を図るために一部の業務を社外へ委託すること等を推進しておりますが、一方で社内に知識、ノウハウの蓄積が進まず、場合によっては競争力、社員サービスの低下を招く恐れが生じております。そこで、システムなどの様々なツールを駆使し、省人化と社員満足度向上の両立をはじめとして、生産性向上を図りながら、同時に社員へのサービス、満足度を高められるような職場環境を創り出していくことにチャレンジしています。



～IoT時代を見据えた働き方改革のための業務環境整備～
 業務の効率化（生産性の向上）✕ 社員へのサービス向上（社員満足度UP）について
 具体的に考えるプロジェクト @人事総務部編



GOAL (到達目標/成果物)

これからの時代に適応でき得る、社員満足度の高い業務環境についての考察を図ることができる。

NEXT STEP

経営環境として、本質的かつ実の伴う、当社における働き方改革へ本格着手できるようになる。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>

大塚テクノ株式会社
 人事総務部次長
 千葉 雄介



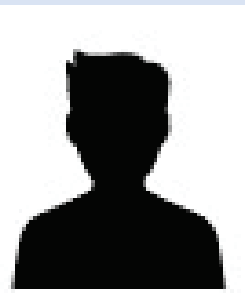
省人化を進めながらも、標準化（マニュアル化）、システム化などを検討し、業務環境を整備することでサービスの質の低下を防ぎ、社員満足度の向上を目指します。



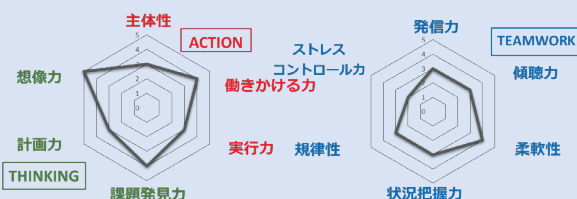
■平成28年度のインターンシップの様子 ■平成29年度のインターンシップの様子

<ドン（学内メンター）>

Coming soon...



<プロジェクトに取り組むことで身につく
 社会人基礎力レーダーチャート>



人と自然を技術でつなぎ、 地産地消・地元地域のさらなる活性化を目指す

エヌ・アンド・イー 株式会社

徳島県小松島市和田津開町字北395番地6

どんな会社？

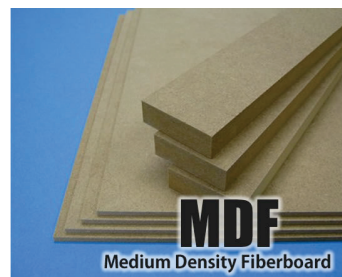
エヌ・アンド・イー株式会社（N&E）は、紙パルプのトップメーカーである日本製紙（N）と、総合建材メーカーの大手である永大産業（E）との合併会社で、木質ボード「MDF※1」の製造を行っています。MDFは、フロア、ドア、クローゼット、階段など、住空間のあらゆる場所で使用されています。皆さんの身の回りにも多くのMDFが使用されているのです。

MDFの主原料である「木」は、Sustainable（持続可能）な材料であり、MDFは木のカスケード利用※2におけるマテリアルユースとしての最終ラインとして、未利用資源である製材廃材や間伐材などを有効利用した環境配慮型のエコ素材です。

当社は、国内に流通するMDFの中で、国産木材を主原料に用いている唯一のMDFメーカーであり、その原料の多くは徳島県産木材を使用していることから、徳島県内における地産地消、地元地域の活性化にも大きく貢献しています。

※1 MDF（medium density fiberboard）：
中密度繊維板。木質繊維を原料とする成形板の一種。

※2 カスケード利用：
資源やエネルギーを1回だけの使い切りにするのではなく、利用したことで性質が変わった資源や利用時に出る廃棄物を別の用途に使い、その後もさらに別の用途に活かす、というように、高レベルの利用から低レベルの利用へと多段階（カスケード）に活用すること。



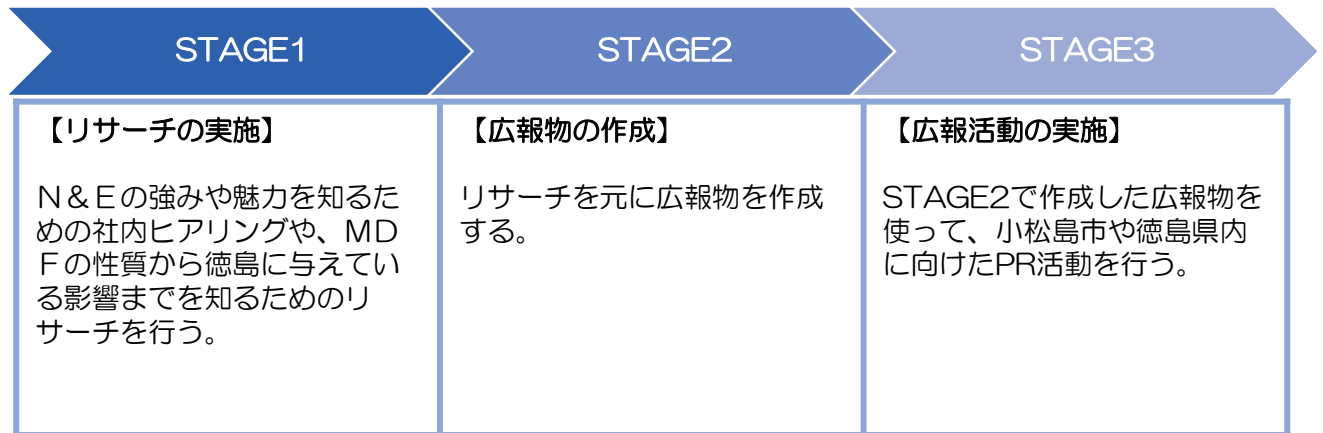
チャレンジしていることは？

これまで当社が製造しているMDFは、徳島県の重点施策の1つである「徳島県産木材の利用促進」に大きく貢献して参りました。しかし、そのことはほとんど知られていないのが現状です。そこで、当社の取り組み及びMDFをアピールし、徳島県のみならず広く知って頂くことで、「徳島県産木材の利用促進」のさらなる拡大に繋げていくと共に、新たなビジネスチャンスの発掘と今後の人材確保のための情報発信を行っていきたくと思っています。また、当社の取り組みやMDFを広く知っていただくことで、当社社員のやりがいの再確認、モチベーションの向上につなげ、働き方改革の一助となることも目指しています。

そのために、今一度当社の魅力・強みを再確認し、広報ツールを作成し、徳島県内に広くその情報を発信したいと考えています。



N&EとMDFの魅力を見える化し、発信する -徳島の資源を有効利用した商品・会社のプロモーション-



GOAL (到達目標/成果物)

- ①MDFを用いた広報ツールの作成及びそれを用いた小松島市及び徳島県内へのPR活動を実施する。
- ②N & Eの取り組みを小松島市及び徳島県内に認知いただく。



NEXT STEP

MDFを広く知らしめるための広報活動及びN & Eの取り組みを広く知らしめるための広報活動を県内全域に広めることで、「徳島県産木材の利用促進」を牽引できるような将来の幹部候補社員の確保に繋がる。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>

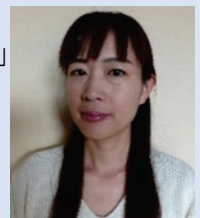
エヌ・アンド・イー
株式会社
取締役部長
籠谷 陽介



当社はメーカーとして、モノづくりの観点から、様々な企画を検討したいと考えております。また、今回のプロジェクトを通して、報・連・相（報告・連絡・相談）、納期厳守、段取り八分（だんどりはちぶん）など、ビジネスマンとしての基本的な考え方・取り組み方について、学んでいただけるいい機会にしたいと考えております。熱い情熱をもって、チームが一丸となり、アグレッシブなプロジェクトを展開していきます！

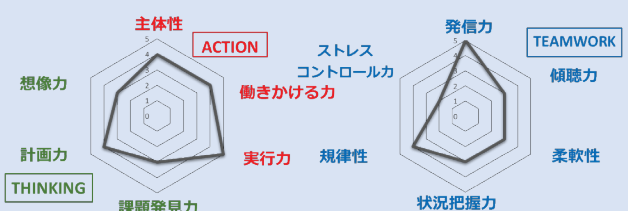
<ドン（学内メンター）>

社会人基礎力として「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」が大事だと言われています。社会に「踏み出す」ことは勇気のいることですが、自分の目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く取り組むことができれば、それは大きな自信に変わるはずです！



徳島大学大学院
創新教育センター
助教
金井 純子

**<プロジェクトに取り組むことで身につく
社会人基礎力レーダーチャート>**



知られざる町工場の魅力を発信するプロジェクト

株式会社 NDK

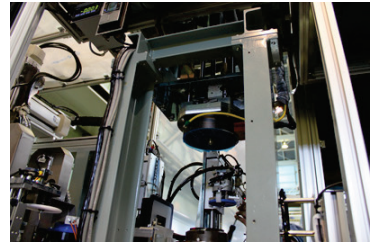
徳島県名西郡石井町高川原字高川原1505

どんな会社？

1979年創業の株式会社NDKは、「オーダーメイドの機械装置」を製造しています。

現在の主な製品はFA機械※と呼ばれる自動検査機や自動省力化機械です。自社の強みである「検査・計測・制御」を活かしたオーダーメイドの機械装置を設計（企画や図面を描く）、製造（実際にカタチにし動かす）、据付まで一貫して対応しています。自社でトータル対応しているので、設計・製造上の不明点を即座に解決でき、お客様のご要望にも確実に対応ができます。

そのほかにも、自動制御盤（FA機械や工場設備を動かすための制御装置）の設計・製造や、電気自動車用のバッテリー充電器の設計・製造、特注の制御装置、測定機器の設計・製造などを手掛けています。ロボットを含む自動検査機、組み立て機、搬送機は、主に近畿地区や中京地区、それにヨーロッパ、アメリカ、中国、インド、タイ、マレーシアなどの海外にも納入されています。



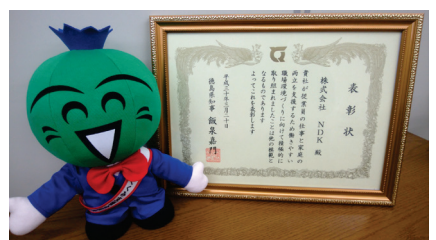
※ FA (Factory Automation) : コンピュータ制御技術を用いて工場を自動化すること、または自動化に使われる機器のことを指す。

チャレンジしていることは？

- 社内の作業効率UP
- 社内作業の改善（道具や機器の配置、作業のムダの削減etc.）
- 得意なモノ作りの技術を活かした、NDKによるNDKのためのワークサポートツールの開発。（機械装置、プログラムetc.）
- 新卒求人について⇒どうしたら会社、仕事内容を新卒(就活)生に関心を持ってもらえるか？会社のPR方法についての検討。
- 社員満足度 (ES=Employee Satisfaction) の向上。
- 女性が生涯に渡ってイキイキと働ける職場環境整備…etc.

私たちの会社はチャレンジに満ち満ちています。見えてくる課題から目を背けたり、後回しにすることなく、それら課題と真正面から向き合い、解決に挑んでいます。また、私たちの業界のニーズも日進月歩、日々進化を求められる業界です。

課題がある。お客様からの要望がある。このことは言い換えれば私たちには可能性がある、そう信じて日々あらゆることにチャレンジをしています。



Lets branding of NDK inc. !
**会社をブランディングするための第一歩。
 来社する学生向け広報紙を作成せよ！**

STAGE1	STAGE2	STAGE3	STAGE4
【企画会議】 経営理念や業務内容、また社内文化についての理解のもと、プロジェクトの主旨に則した広報紙を企画する。	【全社員への取材】 企画会議で策定された主旨に則って3拠点に勤務する社員へのインタビューを実施する。	【広報媒体の作成】 取材情報をベースに、広報紙を作成する。	【社員へのプレゼン】 広報媒体の紹介と共にインターンシップ期間中に感じた当社への考察を学生の視点からプレゼンテーションする

GOAL (到達目標/成果物)

学生視点の広報物ができることで、NDKの強みや魅力を社員が全体像として掴むことができるとともに、来訪者（会社見学の学生及びインターン生）や新入社員に対して、一見ただけでは伝わりにくかった当社の「社風・文化」や「可能性」を可視化して伝えることができる。



NEXT STEP

作成された広報紙をプロトタイプとして、これまで手がけることのできなかった、社員による季刊誌として発展・定例化させることにより、社内コミュニケーションの拡充や社外発信を図ることができるようになる。さらには、企業紹介ツールとして活用することで、より広く当社の魅力や可能性を関係者に伝えることができるようになる。

挑戦する学生へのメッセージ

＜受入担当者＞

株式会社NDK
 代表取締役
 久米 智之



株式会社NDKは、主に大手の工場や事業所で使われる特注の機械を作るBtoBの会社です。

製品の大半は国内だけでなく海外にも輸出され、外国との繋がりも多い会社なんです！インターンシップを通じて「こんな会社が徳島にあったんだ！」と、学生の皆さんにNDKという会社を知っていただけたらと思います。新入社員の5年定着率も90%を超え、若い社員さんも多く、女性の活躍も目立つ会社です。インターンシップで多くの学生さんと出会えること、私達がこだわっているモノ作りの技術や取り組みに、皆さんの考えやエッセンスが加わることで社内に新しい化学変化が起きることを楽しみにしています！

＜ドン（学内メンター）＞

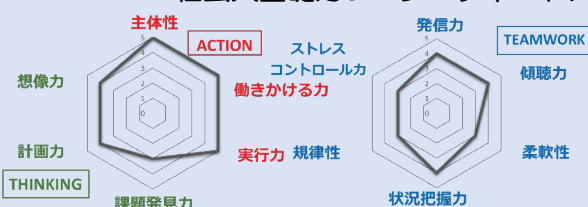
このプロジェクトは、「広報紙を作る」だけに見えるかもしれませんが、何のため、誰のために作るのかを常に考えながら取り組まなければ誰も気に留めないものが出来上がってしまいます。

皆さんが主導する、周囲の期待を上回るインパクトある広報紙づくりになることを楽しみにしています。



徳島大学大学院
 社会産業理工学研究所
 情報光システムコース系
 教授 原口 雅宣

＜プロジェクトに取り組むことで身につく
 社会人基礎力レーダーチャート＞



キャリアバイト2.0

株式会社 テレコメディア

徳島市山城町東浜傍示1-1

どんな会社？

テレコメディアは創業以来、ヒューマンサービスを軸に、通信・メディアを融合し「ヒューマンコミュニケーション」を創造する企業活動を展開して参りました。東京及び徳島に大規模コールセンターを配し、最大1160席、1400名のオペレーターが在籍、全国の様々な大手企業の通信販売の受注・問合せをはじめとするコールセンター運営を行っています。主な業務は通販受付業務、カスタマー窓口、官公庁、VOC分析があります。インバウンド（電話受信業務）では、お客様の「困った」を解決しブランドや商品に対する信頼性を高めていくために心が通った「人によるホスピタリティあふれる対応」を行っています。

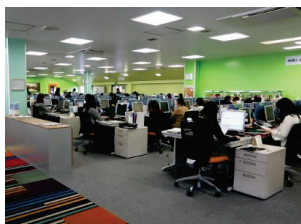
コールセンターサービスを基軸に、新たなサービス展開も積極的に行っております。訪日観光客の増加や2020年の東京オリンピック開催に向けて、多言語サービスの重要性と言語におけるサービス不足の問題を解決するため、店舗やホテル等の接客スタッフと外国人観光客との言葉の架け橋となる『多言語電話通訳サービス』をコールセンター事業として他社に先駆けてスタートしました。（東京本社）2004年9月には徳島県と市が推進するコールセンターの誘致認定第一号として、徳島市に「徳島コールセンター」を開設し活躍の場を広げて参りました。

企業の理念として「社会への貢献」こそが企業の大きな存在理由であり、企業の価値を定める最も重要なテーマであると考えています。革新的なヒューマンコミュニケーションサービスの開発を通じて、雇用促進や人材育成を実施し従業員やその家族も含め、かかわる全ての人に豊かさを提供していきたい。そこで、コールセンター業界の常識を打ち破る過疎の地域に小規模コールセンターを2014年の美波町を皮切りに展開し、現在は4カ所となりました。人が集まる都市部で運営するのが常識であったコールセンターを、人口減少が課題となっている地域で開設する。それにより地域の雇用促進、特に若者が就職先として選択することによる若者の県外流出をくい止め、地域が元気になる一役になればと考えています。美波町、東みよし町、板野町、美馬市の4拠点はふるさとコールセンターと名付け、現在170名のスタッフが働いています。

チャレンジしていることは？

テレコメディアでは、学生、子育てママ、アクティブシニア等ユニバーサル雇用に取り組んでおり、様々な年代や状況をお持ちの方が、仕事を通じて成長を実感しながら働ける職場を目指しています。コールセンターのオペレーター業務では、基本的なマナーやお客様へのおもてなしの対応をする為の様々な研修があります。また、業務の研修に加えて英会話や手話などの講座を開催しています。なぜなら、コールセンターの仕事は全国のお客様と電話を通じてお話しをする顔の見えない電話でのコミュニケーションだからです。学生だけでなく子育て世代、年配層の従業員も講座を受講し、様々な価値観に触れることで今ある以上のおもてなしをお客様へ提供できると考えます。その為、一人でも多くの従業員が講座を活用してくれる状況を望んでいます。特に、学生アルバイトに関しては「キャリアに繋がるアルバイト」名付けて「キャリアバイト」と呼んでいます。昨年の実践力養成型（寺子屋式）インターンシップでは、キャリアバイト生を10名目標で活動しキャリアバイト生として16名が入社してくれました。

ところが、昨年、社員を対象にキャリアバイトの仕組み作りは達成したのですが、徳島コールセンター全体の社員やパート職員にはまだ浸透していません。また、講座の受講者が固定化されており、新たな参加者が少なく、継続に向けた課題があります。そこで皆さんには社内でのキャリアバイトの認知度向上、講座を定着させるためには、どうしたらよいか、課題解決に向けて一緒に取り組んで欲しいと考えています。



平成29年度のプロジェクトの経緯

【テーマ】

コールセンター業務で身につく力を整理しアピールすると共に、キャリアアップを目指す学生が継続的に入ってくる仕組みを策定する。

【成果】

- ①学生のニーズに対応した採用方法及び雇用形態のプロトタイプを確立した。
- ②学生キャリアバイト生という新しい人材を採用した。
- ③「はたらくのカタチ」を今後も定期的に発行し、昨年度インターン生が開拓した人や場所へ引き続き広報を行い、数年サイクルで入れ替わる学生への広報機会を創出しコールセンターの認知度を高めた。

【今後の課題】

今後は社員にもこの仕組みと人材育成講座を定着させていく。

平成30年度 挑戦するプロジェクトについて

学んで楽しい♪ 社会人も学生も一緒に学べる 場づくりプロジェクト

STAGE1

【リサーチ】

キャリアバイトに関する社内向けアンケート調査及びキャリアバイト講座に関する意識調査を実施

STAGE2

【テスト企画の実施】

リサーチを元に講座を企画し、2回開講する。その結果を元に課題達成に向けた取り組みの総まとめを行う。

STAGE3

【集客】

受講者5～6名を集客する

GOAL (到達目標/成果物)

キャリアバイトの認知度：徳島センター従業員 90%以上
キャリアバイト講座受講希望率：徳島センター従業員 50%以上
講座開講時、常に5名以上の受講者がいる状態

NEXT STEP

キャリアバイト講座の安定稼働が実現し、様々な価値観に触れることで今ある以上のおもてなしをお客様へ提供できる。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>



コーポレートデザイン部
平島 夏美



コーポレートデザイン部
阿部 茜

テレコメディアは全従業員が学べる会社、成長できる会社であり続けたいと思っています。学生さんの中には就活に対する不安、社会人に対する不安を漠然と抱えている方もいらっしゃるかと思います。是非このインターンシップを通じて社会人のマナーを体験し今後の生活に活かしてほしいと思います。当社での仕事経験はキャリアに近づく、社会にでる自分に自信が持てる経験になると思います。当社課題解決に向けたプロジェクトに力を貸してくださる仲間に出会えるのを楽しみにしています。

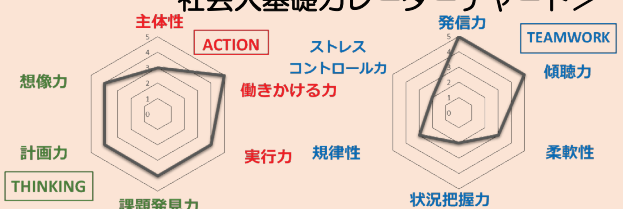
<ドン (学内メンター)>



徳島大学総合教育センター
特任講師
畠 一樹

正課授業だけでは習得できないことが多くある中今回の実践型インターンシップに臨むことで等身大(ありのまま)の自分や社会人との差異を知る絶好の機会だと思います。実践を通して、多くのことに気づき・思考し・行動をしながら自己成長および企業・地域の課題解決に資する展開ができるように共に取り組んでみましょう。

<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



農園オリジナル商品の企画と 販売スキームを構築する

有限会社 檜山農園

小松島市坂野町字松木12

どんな会社？

有限会社檜山農園の生産・販売品目はトマト、米、麦、大豆、小松菜、しいたけであり、自社の農産物を原料とした加工品の製造およびOEM（委託者のブランドで製品を生産すること）による製造・販売も手がけています。

増え続ける地域内の耕作放棄地を引き受けて地域農業の主たる担い手となると同時に、マーケットは幅広く全国・世界を視野に入れて展開しております。6次産業化については農業をより魅力的かつ発展させるための手段の一つと考えており、地域経済に貢献する商品の開発・販売を実現したいと思っています。加えて、海外での現地生産も視野に入れており、実現に向けて調査等の活動を行っています。



チャレンジしていることは？

檜山農園では「檜山農業で世界を幸せにする」という経営理念のもと事業を展開しています。近年、6次化産業への業態転換を図り、事業としての農業経営のスタイルを確立していこうとしています。環境にまで配慮した日本のものづくり哲学と欧米の合理性を融合させ、人、組織、地域やコミュニティ、環境にまで配慮した、独自の新しい農業法人としての確立を目指しています。

檜山農園では、過去2年間に渡って本インターンシップを通じて地域人材の育成と事業体制の確立に向けた経営課題の解決を図ってきました。前年度（2017年度）皆さんの先輩達とつくりあげた中期経営計画に基づき、今年度（2018年度）は“安定した生産体制の確立”と“社内の人材育成”に取り組んでいます。来年度（2019年度）には、販売・営業部門をはじめとする新たな事業部を発足させ、組織化を図る中で社員一人一人が改善策の立案や施行をはじめ、積極的に経営に参画できる体制の構築を開始する計画です。

近年、暮らし方や働き方の選択肢が多様化し、市場のニーズはさらに細分化されています。来年度発足予定の販売・営業部門では、変化する顧客のニーズに合わせて、檜山ブランド商品のパッケージや販売方法を変えていくつもりです。

今回のインターンシップでは、その第一歩目となるプロジェクトを皆さんと共に取り組んでいきたいと思っています。



生産から販売まで 農園オリジナル商品開発とマーケティング

STAGE1

【商品企画・開発】

2019年度から開始する販売数拡大の取り組みに向けて、市場動向の調査分析を行い、市場ニーズに適應できる椋山ブランド商品の企画・開発を行う。

STAGE2

【販売方法立案・検証】

企画・開発した商品のテスト販売を、①直接対面販売、②Web販売の2手法にて実施する。販売した結果についての検証も行い、効果的なセールスプロモーション*についても検討する。

※セールスプロモーション：
消費者に自社の製品や商品を認識してもらい、商品を購入してもらうために行う
広告宣伝活動

STAGE3

【社内品評会の開催】

これまでの結果を元に、社員やその関係者を対象に商品の品評会を開催すると共にセールスプロモーションに関してのプレゼンテーションを行う。

品評会での講評をまとめ、次年度からの施行策を策定する。

GOAL (到達目標/成果物)

顧客ニーズに合った商品の開発および、その商品の販売方法の策定

NEXT STEP

B to B/B to C の販売・営業部門の設立

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>

有限会社椋山農園
フィールド課 係長
堀江 裕輔



椋山農園は徳島県の南に位置する、小松島市を中心にフルートトマト、水稻、麦、有機小松菜、菌床シイタケを生産し、販売する農業法人です。

今回のミッションは生産したモノの「ブランディング」です。その「モノ」の背景から販売までのストーリーを様々な角度でとらえ新たな発見や創造をしていきます。私自身も答えはありませんが共に成長し追及できるような機会にしたいと思いますのでぜひご参加いただければと思います。農業自体の経験がない学生さんも大歓迎です。

<ドン (学内メンター)>

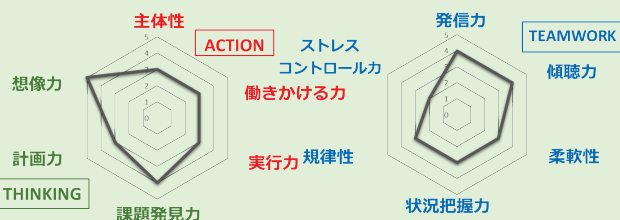
椋山農園様はこれからの徳島県農業を牽引していく有望な企業です。そして、COC+事業のインターンシップ受け入れ先として3年目を迎えます。過去のプロジェクトに参加した先輩達も大変お世話になり、普通の学生生活では経験できない貴重な経験を積んだと感じています。食料・農業分野に関心があるなら、積極的に応募することをオススメしますよ。



徳島大学
生物資源産業界学部
講師

橋本 直史

<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



お店を舞台に大実験！

“安心市スタイル” 店舗運営の方法を探る！

喜多野安心市(エイゼン建設 株式会社)

徳島市応神町西貞方字喜多野14-1

どんな会社？

喜多野安心市は、一般的に産地直売所といわれる小売業です。徳島の農家さんや加工品業者さんが集まり、自ら作った商品を安心市に出品して頂き、その商品を我々が販売し、お客さまと生産者の方をつなぐのが主な仕事です。今からちょうど10年前、野菜作りが好きな当社の社長が、長年営んできた建設業から事業転換をはかり、大きなチャレンジとして始めたのがこのお店です。



『なんで私のキャベツはこんなにもおいしいのだろう…？』

農薬も化学肥料も使わずに、大好きな野菜づくりに取り組む中で、社長はふと思いました。

『安心・安全・新鮮でおいしい野菜をお客さまに食べてほしい』

その思いのもとに集まってくれた生産者の方々、スタッフのみんなと日々努力しています。喜多野安心市のすぐ裏手には農園があり、農薬は使用せず、米ぬか・野菜くずなどの肥料で育てています。まさに安心・安全、新鮮そのものの野菜達は私たちの自慢です。



チャレンジしていることは？

『喜多野安心市の思いを世の中に広めていきたい！知ってもらいたい！』

『徳島の人って安心安全で美味しいもんようけ知っとんな！食べような！って日本中から言われたい！』

現在、喜多野安心市として応神町に1店舗をかまえていますが、将来的には徳島県内中に店舗を展開し、安心市の理念や“食”に対する考え方を発信し、県内中の安心安全で、新鮮で美味しい食材が集まる流通の拠点としての役割も果たしたいと考えています。

その中で、まず必要なのが、現在の店舗のさらなる売上アップです。他店舗展開をはかるには、まずは現在の安心市（応神町店）を我が社の収益源の柱としてさらに成長させることが重要です。また、その取り組みの中で、安心市にあった店舗運営の方法を確立し、新店舗を立ち上げた際にスムーズな店舗展開につなげることも必要となってきます。そこで、今回のインターンシッププロジェクトでは、実際の店舗を使って仮説と検証を繰り返し、安心市の店舗運営の方法を検討していきます。

もっとお客さまに喜んでいただくためにはどのようなことができるのか。小さい会社ならではの実行力を発揮し、新たなチャレンジへの礎を築きたいと考えています！



徳島の食材の魅力を伝える ～行ってみたい、また来たいと思える販売戦略～

STAGE1

【現状分析と調査】

安心市のコンセプト、設立主旨を理解するとともに、そのコンセプトに因んだ展開が図れているか、当店の生産者や顧客層に伝わっているかの検証を多角的な視点で行う。

- ① お客様へのヒアリング調査
- ② 生産農家へのヒアリング
- ③ 商品構成とレイアウト分析
...etc.

STAGE2

【企画立案】

2つの視点から、お客様に安心市の存在とコンセプトを周知していただくための企画を立案する。

- ① 商品の良さが伝わり、お客様に手に取っていただける売り場の仕組みを考える。
- ② まだ安心市を知らないお客様にお店に足を運んでいただける仕組みを考える。

STAGE3

【実証実験と検証】

立案した2つの企画の実証実験として、実際に店舗で、一定期間その運用を行い、結果を検証する。

また、その検証結果を基に店舗で運用可能なオペレーションを考察、可視化する。

※) 上記考察を図る上でできればPOPデザインなど販促物の統一感や充実も図りたいと思っています。

GOAL (到達目標/成果物)

- ① 安心市のコンセプトを顧客に伝えるための手法が確立される。
- ② 一人あたりの単価を上げるための明確な取り組み方法を生み出すことができるようになる。
- ③ ターゲットとなるお客様を呼び込む集客方法と情報発信の体制をつくることができるようになる。

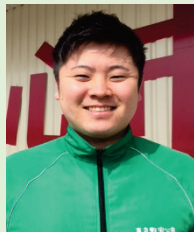
NEXT STEP

店舗(企業)としての指針・方針を周知できるようになり、また店舗経営(運営)や人材確保・育成のための基盤整備を実施・運用していくためのキッカケとなる。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>

喜多野安心市
(エイゼン建設(株))
中川 純



担当者自身も学生時代にインターンシップに参加し、その中で得た経験、特に社会人の方との出会いや社会というものへの一端にふれたことで人間的にかなり成長することができました。みなさんにはぜひこの機会を利用し自らの成長につなげて欲しいと思っています。

一つ言えるのはみなさんの年頃は心の成長期といえるぐらい精神的にのびます！自分ののびしろを信じ、自分に期待している。また自信はないけど成長したい。そんな方といっしょに今回のプロジェクトをできれば幸いです。私に伝えられることは精一杯やりますのでみなさんからもたくさん学ばせてください！よろしくお願いします。

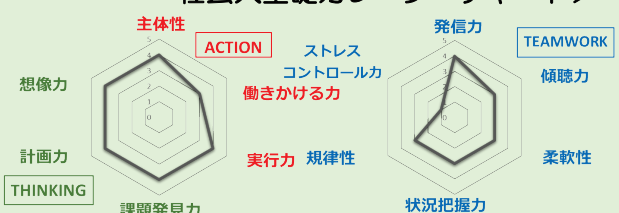
<ドン (学内メンター)>

ひとつの目標を達成するためにはどうしたらよいか。物事を一面からではなく、様々な方向から眺めて分析してみましょう。この経験は、今後の人生のどんな場面にも必ず役に立つはずですよ。



徳島大学大学院
社会産業理工学研究部
准教授
田中 佳

<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



農家さん向けサポートサービスの 体制を構築する(1st stage)

有限会社 竹内園芸

徳島県板野郡板野町大寺字大向北88番地1

どんな会社？

私たちは「育苗業者」。苗を育てて苗を売る、これが私たちの仕事です。農業においては育苗は重要であり、また手間のかかる難しい作業です。そこで、農家さんに代わり苗を作るのが、私たち育苗業者。私たちの仕事とは、いわば農家さんの野菜作りを支える仕事。現代農業にとって、育苗は必要不可欠なものなのです。



有限会社 竹内園芸



チャレンジしていることは？

<会社のチャレンジ>

日々生産の拡大と効率化、サービスの向上に取り組み、既成概念にとらわれずに新しい農業のスタイルを創造・提案していき、変革期を迎えた日本の農業界をリードし続ける企業でありたいと考えております。

<経営理念>

1. 安心して植えていただける苗作りに挑戦しよう。
1. 新しい技術に挑戦し、育苗事業及び農業を改革しよう。
1. 明るく、元気のある職場作りに挑戦しよう。

<プロジェクトの背景>

当社では、野菜苗を播種から接木・育苗して出荷しても、その後農家さん・家庭菜園において定植直後の状態からその後一定期間、どのように生育しているのかの情報を把握していなく、出荷した苗が良い苗だったのかどうかを、出荷時の苗の状態だけで判断しています。

<プロジェクトの目的>

このことから、定植後の生育状態の情報を農家さん・家庭菜園から直接に得て、それを育苗管理に活かすことにより、農家さん・家庭菜園にこれまで以上に良い苗をお届けし、ひいては農業界の発展に繋ぐことができると考えています。

また、本企画で創出した体制・ルートに、近い将来には、温度・湿度測定、土壌分析等々のサービスを追加し、農家さんへの最適環境作り・栽培方法をアドバイス・提案する「農業サポート・サービス体制」を”新しい農業”として創出していきたいと考えております。

新しい時代の新しい農業サポート体制を構築する

STAGE1

【プロジェクトの情報収集】

プロジェクト企画・立案するための情報収集。

- 1.どのような情報を提供してもらうか、返信するかの検討。
- 1.情報送受信・社内蓄積システムイメージの構築。
- 1.導入手順について検討。

STAGE2

【企画立案・体制構築】

- ・企画書を作成
- ・情報の送受信方法を立案・制作
- ・農家さんへの案内状制作
- ・会社内への説明・周知

STAGE3

【導入・運用】

- ・農家さんへの導入
- ・情報の受領・返信等の初期運用

GOAL (到達目標/成果物)

農家さんから映像他の情報を受け、対応できる体制・システムを構築・運用。それを育苗管理に活かすことにより、農家さんに、これまで以上に良い苗をお届けし、ひいては農業界の発展に繋ぐことができると考えている。



NEXT STEP

本企画で創出した体制・ルートに、近い将来には、温度・湿度測定、土壌分析等々のサービスを追加し、農家さんへの最適環境作り・栽培方法をアドバイス・提案する「農業サポートサービス体制」を”新しい農業”として創出していきたい。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>

有限会社竹内園芸
総務部部长
小林 俊之



今回皆様をお願いするプロジェクトは、これからの“新しい農業”のスタートであり、パイオニアとなるものです。

また、一般的に新しいプロジェクトを実施するには、非常に労力を要します。

今回のプロジェクトは、目標到達するには、一人の力ではなかなか難しいことですが、各得意分野を持つメンバーがチーム一丸となって推進・実施すれば達成も可能ですし、メンバー自身に得られるものも大きいかと思います。気概のある学生さん、挑戦してみませんか！

<ドン (学内メンター) >

現代の農業を支える”縁の下の力持ち”的な存在である竹内園芸様は、徳島県の農業に欠かせない存在です。受け入れ先としては今年度が初めてになりますが、食料・農業分野に関心があるならば当プロジェクトに安心して飛び込んでみましょう。貴重かつ有益な経験になることは間違いないでしょう。



徳島大学
生物資源産業学部
講師

橋本 直史

プロジェクトに取り組むことで身につく力

社会人基礎力のほか、プロジェクト企画立案能力、企画書制作能力、農家さんへの導入時にはコミュニケーション能力、システム設計・構築能力、チーム内でのコミュニケーション能力を身につけることができます。

漁業アカデミー稼働！ 徳島の水産業担い手募集PR

徳島県 農林水産部 水産振興課

徳島市万代町1-1

どんな団体？

徳島県農林水産部水産振興課では平成27年に策定した「とくしま水産創生ビジョン」に掲げる

- ① 浜を支える意欲ある担い手づくり
- ② 次世代へつなぐ水産資源と漁場づくり
- ③ 競争力の高い産地づくり
- ④ 安全・安心で活力ある浜づくり

の4つの基本方向に基づき、関係部局と連携し、「もうかる漁業」の実現に取り組んでいます。

①では、関係団体との協力により、平成29年4月に「とくしま漁業アカデミー」を開講しました。アカデミーでは、海上実習、6次産業化などの多彩な講座や、様々な漁業を体験し、目指す就業スタイルを選択できる「オーダーメイド型」の実習や漁業に必要な資格取得を支援しています。また、各種支援制度により、「研修開始から漁業就業・定着」まで、研修生を強かにサポートしています。

②では、種苗生産・放流による「栽培漁業」や「資源管理型漁業」、稚魚の育成場となる「藻場の造成・保全」などを推進しています。

③では、ハモや鳴門わかめ等県産水産物のブランド力強化のため、県内外での認知度向上や消費拡大の取り組み等を推進しています。

④では、「南海トラフ巨大地震」等大規模災害の発生に備えた体制整備や自然災害に強い漁港・海岸施設の整備等に取り組んでいます。



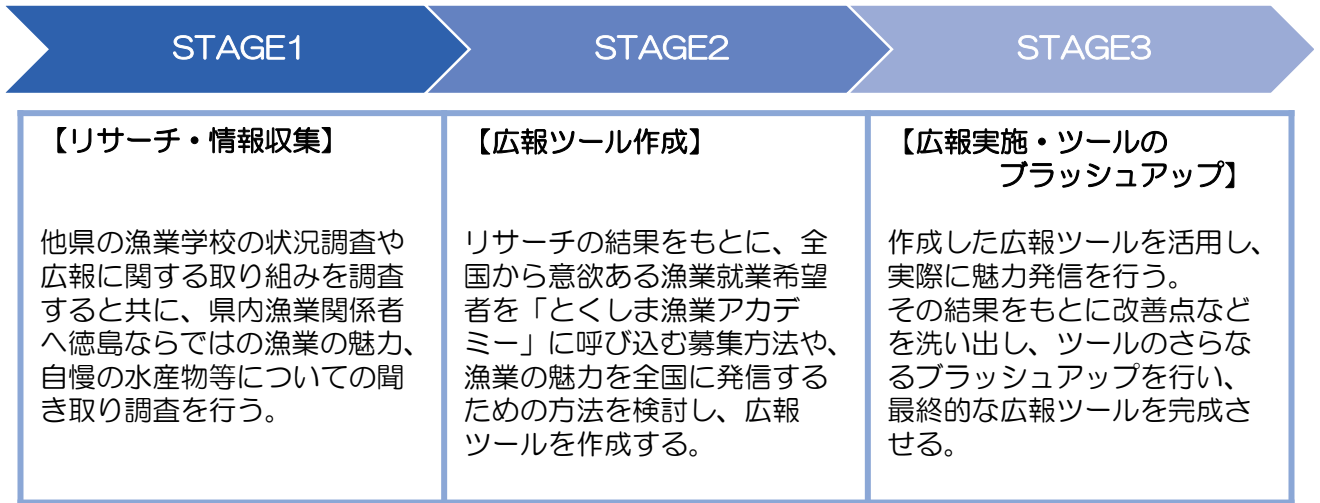
チャレンジしていることは？

新たな担い手の育成・確保に向けて、平成29年に「とくしま漁業アカデミー」を開講しました。徳島の浜を活性化するためには、全国から意欲ある優秀な人材を呼び込む必要がありますが、平成30年度の研修生はすべて県内からの応募であり、徳島の漁業やアカデミーが全国には十分に知られていない状況です。そこで、徳島の漁業の魅力を発見し、全国に向けて発信したいと考えています。

今回のインターンシップでは、関係者への聞き取り等を行なってもらい全国から意欲ある漁業就業希望者をアカデミーに呼び込む募集方法や漁業の魅力を全国に発信する方法を提案していただくとともに、提案いただいた方法を活用し、実際に魅力発信等を行なっていただきます。



ヒアリング調査及び他県取り組み調査でPR案を策定する



GOAL (到達目標/成果物)

漁業就業希望者を募るための広報ツールの作成

NEXT STEP

とくしま漁業アカデミー平成31年度研修生の応募者10名
うち県外からの応募5名

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>

徳島県農林水産部
水産振興課 主任主事
鈴木 貴志



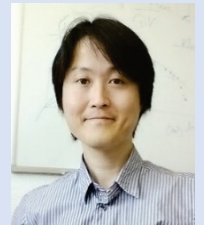
今まで漁業や魚に興味・知識のなかった人でも大丈夫です。徳島の漁業の魅力について、新鮮なご意見をいただけたらと思います。もちろん釣りが好き、魚を食べるのが好きという方も大歓迎です。

徳島の水産物はハモ、アオリイカ、わかめ、イセエビなど魅力的な水産物がたくさんあります。それらを漁獲する漁師の生の声を聞き、漁業現場に触れ、徳島の漁業の魅力を発見していただこうと思っています。

徳島の浜を支える担い手を全国から集めるため、一緒に頑張りましょう。

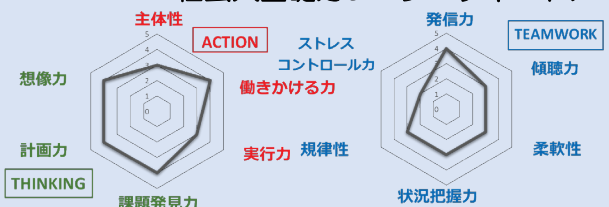
<ドン（学内メンター）>

漁業就業者の減少が問題となっています。背景には日本人の魚離れや漁業収入の低迷など複合的な要因が絡んでると言われています。日本漁業の再生を目標とし、いかにして漁業の担い手を増やすのかという課題を真剣に考えてみませんか？皆さんの若い発想力と行動力で貴重な資源である漁業を再興させましょう！



徳島大学大学院
社会産業理工学研究部
生物資源産業学域
助教
後藤 優樹

<プロジェクトに取り組むことで身につく
社会人基礎力レーダーチャート>



プログラミング教育が切り拓く子ども達の未来 小学生向けの授業カリキュラムを開発しよう！

株式会社 QLiP

徳島県徳島市八百屋町3-26 大同生命徳島ビル1階

どんな会社？

新しい時代に活躍できる人材の育成を目指し、“ICT教育”“心の教育”“論理的思考の育成”の3本を柱に教育事業を展開する株式会社QLiP（クリップ）。その一部門である「クリッププログラミングスクール」では、“ICT教育”を中心に離職者向けの職業訓練（情報系訓練）などの社会人講座を始め、小中高校生を対象にしたプログラミング講座を実施しています。今後社会において必須のスキルとなるプログラミングの普及・教育に努めています。

Qはクエスト（探求）、Lはロジック（論理）、Iはイシューソルビング（問題解決）、Pはプレゼンテーション（発表・発現）を意味します。これまでの詰め込み型授業ではなく、HOW（どうして）とWHY（なぜ）を学ぶ能力を大切に、徳島の子ども達が世界に通用する人になってほしいと考えています。

プログラミングは子どもが楽しく学ぶことを通じて自ら考え創造する力を養うことができます。

徳島の多くの子ども達がプログラミングを学ぶことによって、未来を切り拓く力を身に付けてもらいたいと願っております。



チャレンジしていることは？

2020年必修となるプログラミング教育に向けて、教育委員会をはじめ教育機関は指導方法について様々な検討、模索を行っています。小学校の教育現場ではプログラミング教育をどのように行なっていけばいいのか、まず何から始めればいいのか分らず手探り状態が続いています。株式会社QLiPでは2016年より徳島大学と協働でプログラミング教育の普及に努めており、昨年は石井小学校5年生を対象に実証授業を実施しました。

そして今、2年間に及ぶこのプロジェクトを通して、更に対象を拡大して多様な授業コンテンツ、学習指導案を作成するの必要を感じています。今年度は、小学校全学年に対してプログラミング授業を行う学習指導案の作成を目標としています。

このプロジェクトでは、高度なプログラミング知識というよりは、「教育・子どもについての関心」「データを用いた企画の提案力・実行力」そして何より、「まだ誰も答えを出せていない問題に対してチャレンジする心」が求められます。今、最先端の授業内容を実際の教育現場で実施できる機会には無いので、自分の力を教育分野で試してみたいと思う学生さんには是非チャレンジしていただきたいです。



2020年必修科目となる小学生向けのプログラミング教育カリキュラムを石井町（自治体）と協働開発する

STAGE1

【情報収集・リサーチ】

徳島大学で浮田先生（理工学部）が実施する高校生向けのロボットプログラミング教室に複数回参加し、小学生向けの授業の構成方法や工夫、それによる効果等についてリサーチ・分析を行う。

STAGE2

【ヒアリング調査・授業プログラム策定】

クリッププログラミングスクールに通う子ども達へヒアリング調査を実施し、授業構成の仮説を立てる。石井町教育委員会を通じて石井町内の小学生及び教員を対象にヒアリング調査を実施し、学習指導案を作成する。
※調査を元に、低学年・中学年・高学年用の授業プログラムを構成する。

STAGE3

【授業実施・まとめ】

構成した授業プログラムを石井町内にある複数の小学校で実施する。
実施結果を踏まえて学習指導案をまとめ、石井町教育委員会に提出する。
成果についてのまとめを行い、社内報告会を実施する。

GOAL (到達目標/成果物)

小学校の教育現場で運用可能な授業プログラム（学習指導案）の作成と、中学校教育への接続も考慮した、低学年から高学年に至る体系化された教育カリキュラムの作成

NEXT STEP

2020年に向けて小学校での履修段階で目指すべき、また行うことのできるプログラミング教育の課題が明確になると共に、民間企業である当社が塾生をはじめ、社会で果たすべき役割を考察するキッカケとすることができる。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>

株式会社QLiP
情報責任者
江本 大輔



プログラミング教育の普及に向けて取り組んできたプロジェクトも今年で3年目となり、その集大成となるのが本年度だと思っています。

今注目されている「教育」という分野で、最先端のコンテンツとなる「プログラミング教育」。クリップのインターンシップでは「学習指導案を考える」だけに留まらず、実際の授業を実施します。実際の教育現場でプログラミング授業を行う機会をめぐったにないチャンスだと思います。自分の力を試してみたいと思う学生は是非チャレンジください！

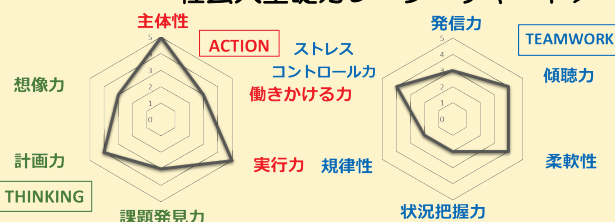
<ドン（学内メンター）>

AIやインターネットを利用したサービスを生み出すためには、プログラミング技術を習得することが不可欠です。ここでは、子供達に教えるという立場から、学生のみならず、より深くプログラミング技術を学べます。また、企画立案や情報収集、プレゼン方法等の様々な知識・技術も学べますので、是非ご参加ください。



徳島大学大学院
社会産業理工学研究所
理工学域 講師
浮田 浩行

<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



RRPG（リアルロールプレイングゲーム）型ツアーを開発せよ！ vol.2

廣間組有限会社

那珂郡那賀町木頭出原字イシノモト28-1

どんな会社？

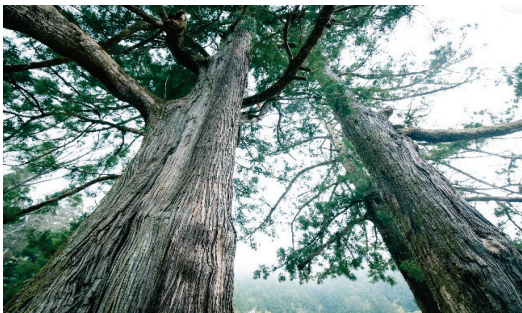
公共土木工事を主体とした地域密着型の総合建設会社です。昭和33年より那賀郡那賀町木頭にて、地域のライフラインを担う道路改良や災害復旧、林道開設や予防治山を行い、優良工事として過去5度の表彰を県から受けています。平成23年からは、環境省策定のエコアクション21の認証・登録を機に環境経営に取組み、全国の事業者が参加する環境コミュニケーション大賞においても過去4度の表彰を受けており、平成27年からは、環境三大テーマである『低炭素化社会、生物多様性、循環型社会の実現』を推進していくため、『山櫻プロジェクト』を立ち上げました。これは木頭に残存する日本古来の桜『ヤマザクラ』を種から育て、木頭の林地などに植樹し、個体数が激減しているヤマザクラの保全とCO2の吸収固定を同時に図りながら、山櫻の景勝地を誕生させていくプロジェクトです。また、ヤマザクラの間伐材や未利用材を利用したお箸を制作し『木頭山櫻五稜箸』と名付け販売しています。五稜とは5つの山を意味し、那賀町を形成する旧の5町村全体が振興する事を願い命名しました。現在は那賀町のふるさと納税の返礼品としても展開しています。



チャレンジしていることは？

平成29年度に実施したインターンシッププログラムではRRPG(リアルロールプレイング)型ツアーの開発に着手し、特に木頭中心部をメインとしてマップを制作しました。今期はその精度向上と奥木頭を含めた木頭全土のガイドマップの作成を行いたいと考えています。手法として、住民に話を聞きながら現地をロールプレイして情報を集積し、お気に入りの場所や思い出の場所、その理由や歴史、暮らしの知恵や文化を口伝として記録（アーカイブ）していきたいと考えています。

「記録から記憶へ」インターン生は木頭と共に生きる人々を巡りながら、現地でRRPGツアーの疑似体験をします。狙いとして、ツアープランのヒントを得ること、将来、口伝記録された登場人物の子孫や関係者のツアー参加、Uターンを促進することにも繋がると考えています。また、マップ完成後に住民を集めて発表会（プレゼン）を行い、情報共有をはかります。これにより、相互理解を深めることや地域間コミュニケーションを促進し、地域福祉的な側面も併せ持つことにも繋がると考えています。プロジェクトのゴールはあくまでも木頭の振興（＝廣間組の業績向上）であり、朱杉ツアーはその戦術として考え、チャレンジしています。



標高1000m徳島県最深部の集落を巡る旅を創造する vol.2

STAGE1	STAGE2	STAGE3	STAGE4	STAGE5	STAGE6
【現状把握と現場視察】 昨年度までの流れや、既存のRRPGマップを確認し、現地に赴き木頭の現状把握を行い、また地元住民からも必要な情報収集を行なう。	【ツアーデザイン】 集めた情報を基に、RRPGツアーの企画会議を行い、ツアーマップに載せる人・景観などのコンテンツを選抜する。 (→仮説設定)	【現地ヒアリング】 洗い出したコンテンツをもとに、現地住民へのヒアリングを行ない、理解を深め、ツアープランの作成を行なう。	【マップ作成】 RRPGETourマップを作成するとともに、現地でのツアーデモの対象者の募集を行なう。	【ツアーデモ】 対象者に対して仮説に基づいて作成したツアープランのデモを実施する。	【ツアー検証とプレゼン】 ツアーデモの検証を行い、プランやマップの修正を図る。また、関係者に向けた成果報告を行なう。

GOAL (到達目標/成果物)

- ①木頭全域の階層型ガイドマップの完成
- ②RRPGツアーデモの実施と検証
- ③関係者へのプレゼンテーション



NEXT STEP

成果物をもとにしたツアーのプロトタイプの実行に移行するとともに、今後、事業計画の策定ができるようになる。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>

廣間組有限会社
土木事業部 技士
松本 恭典



Do you know the KITO?

木頭は市内から車で2時間半かかり鉄道も高速道路もありません。遠く不便で過疎の進行する本物の田舎です。

東京一極集中が進むなか、木頭は徳島の未来の縮図といえ、この木頭を振興することが徳島の未来を守ることであり、本当の地方創生ではないかと考えています。木頭は…何もない…地域ですが、その前置きと後書きにこそ木頭の良さ（価値）があり、ツアーを構築する上で欠かせないものです。そこに気付く為にもインターンでは現地を周り体感してもらわなければなりません、その気づきは皆さんが社会に出てから仕事や人との関わりのなかで、必ず役立つものになると思っています。

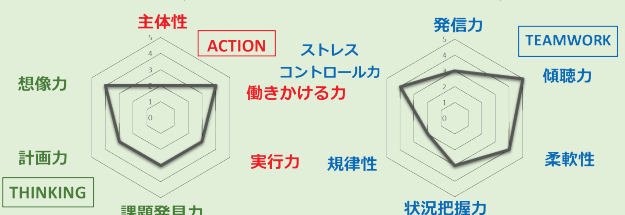
<ドン (学内メンター)>

大学で学べることは限られています。現場での実践を通じて、いろいろ悩み、もがいた上で大学に戻ってそれを整理する。なぜうまくいくのか、なぜうまくいかないのか？このような実体験と理論化の行き来をしながら、自分の背骨となるような強い意思を育ててほしいと思います。



徳島大学大学院
社会産業理工学研究部
社会総合科学域 准教授
田口 太郎

<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



「とくしまマルシェ」を 徳島を代表する地域ブランドに育てよう！

株式会社 ネオビエント

徳島市南末広町4番54号

どんな会社？

株式会社ネオビエントは、イベント事業、地域ブランド創造事業、施設管理運営事業、自治体等受託事業の、主に4つの事業を展開しています。

イベント事業では、体験型イベントの企画立案・制作・手配・運営まで一括対応し、お客様に満足いただけるイベントを提案しています。

地域ブランド創造事業では、地域情報サイト「まいづれ徳島」や産直市「とくしまマルシェ」を運営しています。施設管理運営事業では、「あすたむらんど徳島」「渦の道」などの観光施設・文化施設等の管理運営を行っています。自治体等受託事業では、「おどる宝島パスポート事業」などの徳島の観光や暮らしをもっと元気にする事業を行なっています。

社名である「ネオビエント」は、「ネオ」（“新しい”という接頭語）+「ビエント」（スペイン語で“風”で“新しい風”を意味します。徳島には世界に誇れる文化、自然、産業、食など多くの魅力があります。そしてそれらを創りあげてきた、人情味あふれ、お接待の心を持つ人たち…。株式会社ネオビエントは、徳島の「新しい風」となり、徳島に「新しい風」を起こし、徳島という地域ブランドを創造していきます。



チャレンジしていることは？

「とくしまマルシェ」とは毎月最終日曜日に新町ボードウォーク周辺で開催している産直市です。約80の白いパラソルが軒を連ね、とくしまマルシェ事務局が足を運んで見つけた生産者の自慢のこだわりの逸品を販売しています。平成22年12月より開催されている「とくしまマルシェ」の運営を、昨年11月から弊社が行っていますが、さらに飛躍するための「とくしまマルシェ」の課題を模索しているところです。

そこで、現状を調査・分析し、課題を解決していくうえで、5年後には来場者数を現在の約8,000人から約16,000人へ倍増を目指しています。また、「とくしまマルシェ」の目的である次の項目の達成に向け、これまでの良さを維持しつつ、新規事業を検討し、徳島を代表する地域ブランドにしたいと考えています。以上のことから、①「とくしまマルシェ」に出展する若手生産者を増やし、徳島の農業ビジネスを活性化 ②新町ボードウォークで開催することで市街地の活性化 をテーマにしています。



5年後「とくしまマルシェ」を徳島を代表する地域ブランドに育てるために
「とくしまマルシェ」の現状を知り、課題に気づくためのプロジェクト

STAGE1

【とくしまマルシェの現状を知る】

とくしまマルシェを開催している目的は何か？また、その達成度合について主催者や関係者にヒアリング、簡単な調査を行い、現状を理解します。

STAGE2

【とくしまマルシェの課題に気付く】

「とくしまマルシェ」の課題を知るため、利用者と出店者、またそれぞれに聴くヒアリング項目を策定し、マルシェ会場で情報を収集します。また「とくしまマルシェ」の認知度についてもヒアリングを行ない、課題を明確にします。

STAGE3

【調査結果を検証する】

利用者や出店者が求めていること、来場者の属性やリピート率、「とくしまマルシェ」の認知度や利用しない理由など、現在の「とくしまマルシェ」の課題について社員と学生で検証を行ないます。

GOAL (到達目標/成果物)

「とくしまマルシェ」はどうあるべきか、どのような役割を担っていくべきか、果たすべき機能や将来の在り方について取りまとめ、報告書を作成する。

NEXT STEP

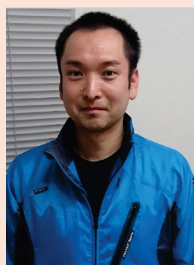
今後とくしまマルシェの事務局として運営にどう取り組んでいけば良いか、2019年度（以降）の事業計画につなげます。数値目標としては、5年後に来場者数16,000人/日を目標とする。

挑戦する学生へのメッセージ

＜受入担当者＞



専務取締役
近藤 敬大



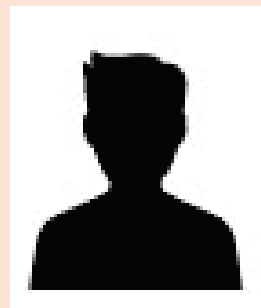
共歩共育部
(人事担当)
佐藤 博隆



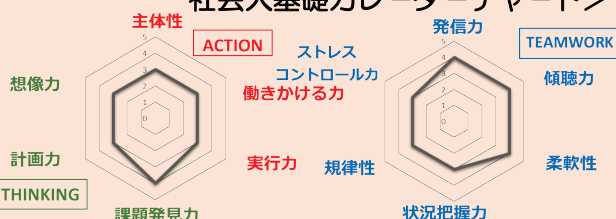
魅力発信部
(主任)
田村 健

＜ドン（学内メンター）＞

Coming soon...



＜プロジェクトに取り組むことで身につく
社会人基礎力レーダーチャート＞



インターンシップを通して大学生の視点から、私共が気づいていない課題が出てくることを期待しています。また、その課題を解決するためにはどうアプローチするかを考え、解決策を出すプロセスを体験いただきたいと思っています。このプロジェクトを通して徳島を元気にしたい！という仲間に出会えることを楽しみにしています。

ワカモノが夢中になれる番組をつくろう！

四国放送 株式会社

徳島市中徳島町2丁目5-2

どんな会社？

四国放送は、1952年、四国で最初の民間放送局としてスタートしました。

キャッチフレーズは「郷土の電波」。地域に根差した番組作りを基本に、テレビ・ラジオ放送を行っています。それから54年たった2006年10月、地上デジタル放送が始まりました。デジタル放送を記念して生まれたイメージキャラクターは「おもぞう」。『おもっしょいぞう』をキャッチフレーズに、皆さんに面白い番組を届け続けます。

今回インターンシップの受入先となるのは、四国放送のラジオ局です。ラジオはテレビ以上に地域に密着した情報を毎日お伝えしています。



© Shikoku Broadcasting Co., Ltd.

チャレンジしていることは？

若者のラジオ離れが言われています。その原因にはメディアや娯楽の多様化が挙げられていますが、ラジオはひとたび大災害などが発生すれば、なくてはならない情報インフラとして位置づけられています。実際、東日本大震災の際、新聞やテレビ、スマートフォンといった情報手段が失われた状況で、唯一残されたのはラジオでした。このように、有事においては大活躍し、決して無くしてはならないラジオに、普段から親しんでもらうためにも、若者のラジオへの関心度を調査してもらい、大学生のアイデアによる番組作りに期待したいと考えています。



© Shikoku Broadcasting Co., Ltd.



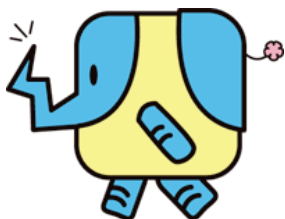
© Shikoku Broadcasting Co., Ltd.

電波をジャックする!! ワカモノたちのワカモノたちによるワカモノたちのための 番組制作プロジェクト

STAGE1

【リサーチ・実態調査】

高校生・大学生を中心とした若い世代に、ラジオ番組の聴取状況の実態調査を実施する。



STAGE2

【番組制作・広報】

調査の結果を踏まえ、若者に聞いてもらえるラジオ番組を企画・制作する。

制作した番組の広報活動も実施し、実際に番組を放送する。

STAGE3

【追跡調査・まとめ】

実態調査の対象者に対し、制作したラジオ番組に関する追跡調査を実施する。

聴取率や番組に対する意見を集め、取り組み結果をまとめる。

GOAL (到達目標/成果物)

若者に聞いて貰えるようなラジオ番組の制作し、放送する。

NEXT STEP

公共インフラとしてのラジオを存続させることに繋がる。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>

四国放送株式会社
ラジオ局
ラジオ編成制作部 部長
中津 一人



ネット、SNSなど様々な情報交換ツールが生活の中に入ってきていますが、情報の信頼性、速報性、広域性という点でテレビ、ラジオはまだメディアの中心にあるといえます。有事にも重要となるこのメディアをこれからもより広い世代に使ってもらうために、また若い世代にラジオの魅力を感じてもらうためにもラジオの“番組を作る”“それを多くの人に聞いてもらえる”という現場を経験してほしいと思います。

<ドン (学内メンター)>

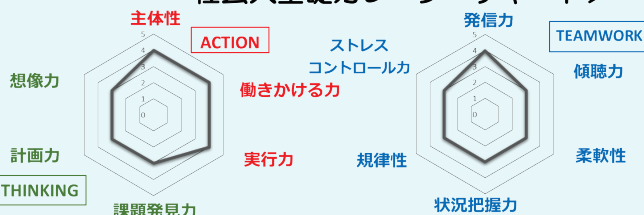
プロジェクトとは、期限内に複数のメンバーで独自の成果を生み出すことです。答えのない課題に取り組むことになるので多くの困難に遭遇します。プロジェクトが行き詰ったときに気軽に相談できる頼りになるドンとして振舞います。プロジェクトの進行を見守りつつ、時には一緒に知恵を絞りますので、よろしくお願いいたします。



徳島大学大学院
社会産業理工学研究部
理工学域
講師

日下 一也

<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



地域活性化のために大学と クラウドファンディングの果たす役割を創出しよう！

一般社団法人 大学支援機構
徳島市新蔵町2丁目24番地 徳島大学本部2階

どんな会社？

現在、特に国立大学法人は運営費交付金の削減により、財政的に非常に厳しい状況となっています。このままでは、日本の教育基盤が失われ、科学技術を発展させる人材が失われる可能性があり、実際の傾向がすでに顕著になっています。そこで、各大学が孤立的に奮闘するのではなく、相互に連携し、共有できるものは共有することにより無駄を無くし、この危機を乗り越える必要があります。そのために必要なプラットフォームを設置するために、一般社団法人大学支援機構は設立されました。

現在は、イノベーションを創出し未来をつくるプラットフォームとして、Otsucle「おつくる」のサービスを開始しています。これはクラウド（不特定多数の人々）による支援を受けるためのプラットフォームであり、クラウドを支援するためのプラットフォームでもあります。

Otsucleでは、クラウドファンディング、クラウドソーシング、ウェブショップ、研究サポーターズ事業を多くの大学に利用していただける様、日々活動をしています。

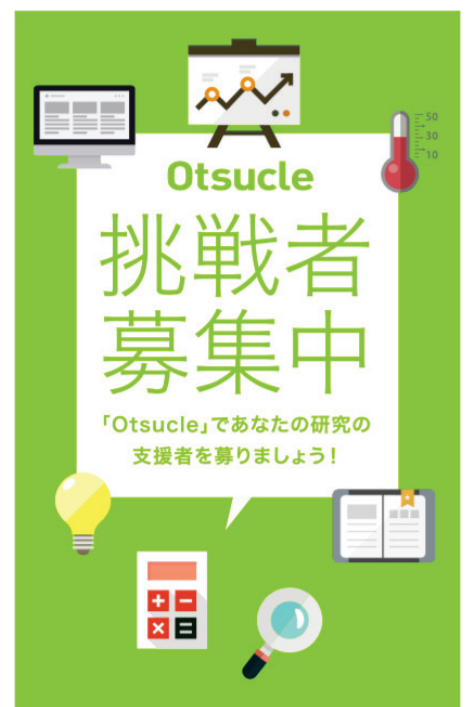


チャレンジしていることは？

大学支援機構は、大学の研究や教育、社会貢献活動とこれまでそれらに接することのなかった方々をつなぐサービスを提供することで『大学は地域から支援され、研究成果や知識、人材を地域のために還元していく』という関係や文化の醸成を目指しています。このような取り組みを現在徳島大学を中心に実施していますが、ゆくゆくは全国の大学へと広げていきたいと思っています。

そのために力を入れているのが、支援機構の設立当初より実施しているOtsucle「おつくる」のクラウドファンディングサービスです。これまでの多くのプロジェクトは「大学発信のプロジェクトや研究に対して地域の方々から支援を募集する」という形でクラウドファンディングを実施しています。しかし今後、大学が地域から支援されるだけでなく、「地域が大学の研究成果や知識人材を活用して支援を募集するプロジェクト」を地域で活動する方に提案していきたいと考えています。

大学または学生がどのような方法で地域の方々の活動をサポートできるかを考え、大学の資源を活用した地域のためのクラウドファンディングを具体的につくり上げて、その成功を目指すのが今回のインターンシッププロジェクトです。



「地域」による「大学の資源」を活用したクラウドファンディングプロジェクトの提案と実践

STAGE1

【地域と大学、クラウドファンディングを理解する】

地域の課題と大学の持つ資源、そしてクラウドファンディングの仕組みについて理解する。

STAGE2

【地域課題の解決を大学の資源で支援する方法を考える】

大学または学生が、地域で活動する方に対して、どのような支援ができるかを具体的に提案する。

STAGE3

【提案した内容を実現するためのクラウドファンディングに挑戦する】

地域で活動する方に対して、大学の資源による支援を実施するためのクラウドファンディングへの挑戦をサポートし、成功させる。

GOAL (到達目標/成果物)

地域で活動する方を、大学の資源により支援するクラウドファンディングで成功させる。

NEXT STEP

「地域が大学の研究成果や知識、人材を活用して支援を募集するプロジェクト」を徳島で定着させる。



挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>

一般社団法人
大学支援機構

橋爪 太



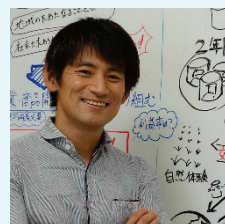
どのような良い活動やビジネスプランでも、現実にしていくためには活動資金が必要となります。アイデアを考えたり、ビジネスプランを発表する機会はあると思いますが、実際に活動資金を集めるという経験は中々出来ません。

とても難しいプロジェクトとなるかもしれませんが、何かを実現するためには絶対必要な経験です。個人個人の持っているあらゆるスキルを使ってCFを成功させて新しいプロジェクトを世の中に作り出しましょう。

私達も、学生さんや地域の方のためにどのような事が出来るのかを知りたいと考えていますので、ぜひ一緒に考え・実行していきましょう！

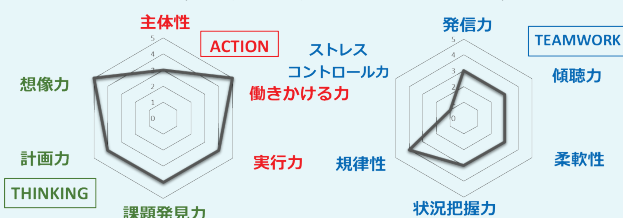
<ドン (学内メンター)>

今、大学の危機が叫ばれています。そして同時に、地域も多くの問題を抱えています。学生のみならずには大学と地域を結ぶ「懸け橋」となり、両者が手を取り合い共に前に進むための新しいかたちづくりにチャレンジする場として、このインターンシップに挑戦していただければと思っています。



徳島大学
教養教育院
イノベーション教育分野
講師
北岡 和義

<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



地域の良さを包み込む！ 世界農業遺産認定地で新たな”食”を開発！

株式会社AWA-RE（アハレ）

美馬市脇町大字猪尻字若宮南131番地2号
※活動拠点：三好市西祖谷山村今久保175番地

どんな会社？

株式会社AWA-REは、徳島県西部を拠点に活動している、新しい会社です。

四国のまんなか、三好市・美馬市・つるぎ町・東みよし町の2市2町から成る「にし阿波」と呼ばれるエリアで、地場産業に新しい価値を与える触媒として、ツーリズム事業（観光事業）、教育事業、エンジニアリング事業の3つの事業を展開しています。

ツーリズム事業では、ゲストと地域住民に共感が生まれる旅行体験の提供、教育事業では持続可能性をテーマとした学生・社会人向けの研修コーディネート、エンジニアリング事業ではICTを活用した社会課題の解決に取り組んでいます。



チャレンジしていることは？

株式会社AWA-REは、「経世済民」の原点に立ち、地域の歴史文化を伝え継ぎ、人と人を繋ぐ架け橋となることを目指し活動しています。ツーリズム事業を推進する上で、より深く質の高い顧客体験を追求したときに“食”は外せません。

にし阿波は、地域に古くから継承されている“傾斜地農耕システム”が2018年に世界農業遺産の認定を受けました。インバウンド旅行客数も大幅に伸び、世界から着目を浴びている一方で、地域の価値を表現した食を提供している事業者は少なく、大きな機会損失が生じています。そこで私たちは「食をテーマとした地域の価値を提供できる仕組み」の開発を検討しています。

コンセプトは『地域の日常を新しい顧客体験へ』。地域住民が普段から食す山の幸を包み込んだ商品を開発します。弊社側で包む皮を用意し、地域の方々に具の部分を担当していただきます。プロジェクトでは地域住民へのヒアリングを通しながら、どのような具材が適切かを探索していきます。開発した商品はツアー内で提供および今年度末に完成予定の弊社ゲストハウスにて販売を行う予定です。「観光」「地方創生」「国際交流」を通した新たな仕組みを、ここにし阿波から発信していきます。



「食」を通じて世界と地域を繋ぐプロジェクト

STAGE1

STAGE2

STAGE3

STAGE4

【リサーチ】

現地の歴史文化や風土など地域の特色について調査し世界農業遺産の価値について明らかにする。地域の基本情報を調査した上で、あらためてプロジェクトの成果目標を定性・定量的に何が適切か目標達成のために何が必要かを整理する。

【現地調査】

現地を訪れてリサーチ段階で立てた仮説を検証する。傾斜地農法を体験しつつ、どのような商品にするかを具体化。同時に、地域の人々へ今回のプロジェクトの説明を行ない地域住民と協働する土台作りを進める。

【商品開発と試食会】

これまでの情報をもとにプロジェクト全体のストーリーを踏まえて商品開発を行なう。なお、開発の過程で試食イベントを複数回実施し改善点を探る。

【ストーリーデザイン】

開発した食がプロジェクト終了後、どのように地域へ波及し、価値を提供し続ける仕組みとなるのか、ストーリーを描く。

GOAL (到達目標/成果物)

地域住民が参画できる食の仕組みができあがっている。(開発した商品はその為のツールである) 開発した商品が販売にたどりつくまでの道筋が見えている。

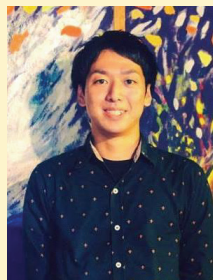
NEXT STEP

にし阿波の地域特性やストーリーが反映された「食」のプロダクトが開発されることで、このプロダクトをツールとして地域と世界を繋ぐ仕組みづくりに挑戦することができるようになる。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>

株式会社AWA-RE
取締役
井上 琢斗

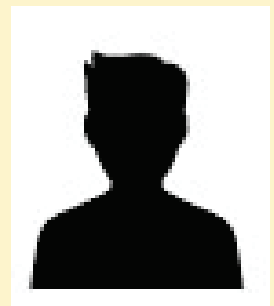


「I」や「You」ではなく「We」で
取り組むプロジェクト

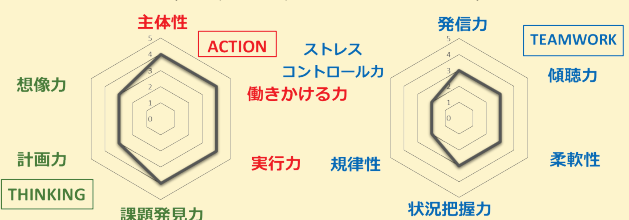
スタートアップの段階なので、目まぐるしいスピードで日々状況が変化します。メンバーもそれぞれプロジェクトを抱える中で、お互いの得意な部分を活かして相互支援しながら事業に取り組んでいます。皆さんとも是非チームの一員として一緒にプロジェクトを進めて行くことができればと思います！

<ドン (学内メンター)>

Coming soon...



<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



地元徳島の産品を海外へ。 「地域商社」のトリセツを発刊せよ！

株式会社 基
徳島市南沖洲5-8-60

どんな会社？

昭和60年11月に設立された徳島港湾荷役は、国際物流に関する専門性の高さを活かして、平成27年8月、徳島県産品の海外展開を行う地域商社、基（MOTOI）を設立しました。

基は、海外で県産品の展示会を開催したり、バイヤーとの交渉や貿易事務などを生産者に代わって引き受け、生産者から国内卸価格で仕入れ、海外販売も行っています。社名の『基』は共通のプラットフォームの意味です。課題を共有し、解決していきます。これまで台湾、香港、マレーシア、シンガポール等世界の都市で取り組みを実施し、成果を出してきました。取扱品目は地元名産のなると金時や加工品等を幅広く取り扱っています。世界の食糧需要は10年で2倍になると見込まれています。そんな中で基は大手商社では立ち回りの効かない小規模生産者が生み出す商品群をもって、世界のニーズを探り、現地の声を持ち帰って研究開発に生かしてもらい、マーケティングの役割も担っています。安全・安心で世界的評価の高い日本の食材には輸出品目としての大きな可能性があります。



チャレンジしていることは？

今後は、地域商社として「徳島県産品の良さ」を「徳島の歴史・文化」を含めて消費者に丁寧にお伝えし、徳島のファンを多く獲得したいと考えています。そして、バイヤーを通じた販売ルートだけではなく、最終的には、海外の現地顧客に向けて直接価値を伝え、販売を行えるような仕組みを構築し、タイムリーに手頃な価格で海外のファンへ商品をお届けしていきたいと考えています。

また、様々なインターンプロジェクトを組成し、学生・企業人が広く関われる場をつくり、地域の若者の成長や、地域企業の求人活動にも寄与する取り組みも行っていきたいと考えています。



「地域商社」が地域産業に対して果たす役割と活用の仕方について整理し、わかりやすく発信する

STAGE1

【コンセプトの策定】

- ①「地域商社」の果たす社会的役割とその可能性について協議を行い、コンセプトを可視化・明文化する。
- ②海外顧客のニーズをまとめ、地元産品とのパッケージングを考察する。

STAGE2

【事業説明会の開催】

STAGE1でまとめた資料をもとに、海外顧客のニーズに応えることのできる地元の農家や加工業社の開拓を行い、事業説明会を開催し、本事業への賛同者を募る。

STAGE3

【広報ツールの策定】

事業共同体に関する広報ツールをデザイン、策定する。

GOAL (到達目標/成果物)

- ①事業の社会的意義や利用者のメリットなどが明文化・可視化される。
- ②地元徳島における本事業の輸出取組生産者数、商品点数が増加する。
- ③事業共同体(チーム)が形成され、団体活動に関する情報発信のデザインが起案されている。

NEXT STEP

- ①地域内(輸出元)・海外(輸出先)へ、事業コンセプトを明確に発信することができ、さらなる賛同者を募るキッカケが創出されることで、地域産業の活性化に繋がる。
- ②徳島の生産者と産品を世界にPRできると共に、貿易を通じて海外市場との交流を図ることができる。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>

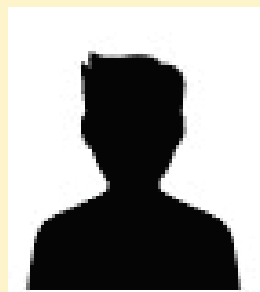
株式会社基
代表取締役
端村 圭



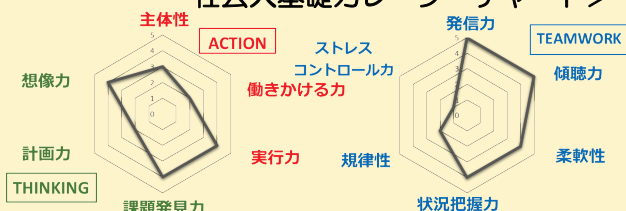
社会構造の急速な変化で、企業も働く人も、意識と行動を大きく変える必要があります。当社は地元で従来から取り組んできた事業を大事にしながら、地元の強みを生かし世界へ挑戦して発展させるという試みを行っており、その現実や躍動感、ライフスタイルを体験してもらえば、きっと感じるものがあると思います。また当社では、別途、海外インターンの受け入れも行っており、すでに海外拠点で活躍する学生との交流や情報交換ができることも、いいきっかけになればと思っています。

<ドン(学内メンター)>

Coming soon...



<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



増田友也モダニズム建築群と美しい景観が共存する わがまち鳴門の魅力を伝えよう！

公益社団法人徳島県建築士会

徳島市富田浜2丁目10番地 建設センター5階

どんな団体？

建築士会は、専門知識を生かした様々な社会貢献活動により、建築士業務の進歩発展、ならびに建築士としての品位の保持と地位向上を図り、ひいては建築文化の振興に寄与することを目的とする団体です。各都道府県に1つの組織があり、徳島県建築士会では、阿波のまちなみ研究会などの研究活動、伝統的木造建築物耐震改修モデル事業等の徳島県や市町村、その他社団法人からの委託業務、カラーユニバーサルデザイン勉強会や建築士会の出前授業等の社会貢献活動などの活動を行なっています。公益的な委託業務や地域貢献活動については、徳島大学を始めとする教育機関、県、市町村と連携を強め、共に県民や一般市民の福祉の増強に寄与しています。



チャレンジしていることは？

鳴門市内には増田友也（元京都大学教授）のモダニズム建築によって設計された公共施設が19現存しています。増田友也は「東の丹下健三、西の増田友也」と称されたほど有名な建築家です。

しかし、鳴門市内にこれほどの公共施設が建築群として残されていることは、あまり知られていません。鳴門市に残された増田友也建築群には、幼稚園・小学校も多いのですが、児童数の減少でそのいくつかは休校となっており、現在は避難所として利用されている程度です。

地域住民の愛着の詰まった学校施設。我々建築士会は、地域の風景として、増田建築群としての価値を伝えると共に、「増田建築と美しい景観が共存するわがまちの価値」を、地域住民の皆さんに知ってもらいたいと思っています。

そこで今回のプロジェクトでは、増田建築群をめぐるサイクリングコースを、地元住民や地域活性化のために動く諸団体を巻き込みながら、皆さんと共に作り上げたいと思っています。



鳴門市内の増田友也モダニズム建築群を周遊する サイクリングコースを作成し、まちの魅力と共に発信する

STAGE1

【リサーチ・研修へ参加】

公共施設等総合管理計画の概要を調査し、すでに整備されている自治体の事例を整理する。

建築物の価値について、建築物の写真の撮り方について建築士会の研修会に参加して学ぶ。

STAGE2

【建築群調査・コース作成】

増田友也建築群をめぐり、関係者へのヒアリングを交えながら、建築物の写真を撮影する。

調査した建築物を周遊するサイクリングコースを3ルート策定する。

STAGE3

【イベントでの広報】

鳴門市内のイベント等で、増田友也建築群をめぐるサイクリングコースの紹介や、建築物の価値を伝える写真の展示等の広報活動を行ない、地域住民に広く周知する。また、InstagramやFacebook等のSNSを活用した広報も実施する。成果と活動報告をまとめて社内報告会を実施する。

GOAL (到達目標/成果物)

増田友也建築群を周遊するサイクリングコースの提案（3ルート）

NEXT STEP

①学生が参画するプロジェクトを定期的に鳴門市で広報することにより、地域住民に「建築群として存在する増田建築と美しい景観が共存するわがまちの価値」を知ってもらう。②鳴門市の景観（含む公共施設）をInstagramやFacebookで全国に発信する。③鳴門市内の地域活性化のために個別に動いている諸団体をつなぐハブ機能となれるような仕組みづくりを行なう。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>



公益社団法人
徳島県建築士会
会長
笠井 義文



公益社団法人
徳島県建築士会
鳴門地域会青年部
山元 尚武



公益社団法人
徳島県建築士会
鳴門地域会青年部
福田 頼人

徳島県建築士会は、建築に携わるプロ集団として様々な地域貢献活動を行なってきました。これからも建築を取り巻く地域を活性化し、国民の生命・健康・財産を守るための活動を続けていきます。

今回、鳴門市に数多く現存し、国民（鳴門）の財産とも云える『増田建築』群を地域活性のポイントとするプロジェクトを学生の方と一緒に考えてみたいと思います。建築士会という団体の特性を活かし、地域の文化資源の発掘と学生にとって企業や行政との人脈づくりにもつながるプロジェクトにしたいと考えています。是非、私たち徳島県建築士会の仲間になってこのプロジェクトを楽しみませんか？

<ドン（学内メンター）>



徳島大学大学院
社会産業理工学研究部 理工学域
専門研究員 森本 恵美



徳島大学技術支援部
常三島技術部門 ものづくりグループ
一級建築士 河村 勝

徳島県建築士会は、社会活動や地域活性化に貢献していることでも知られています。学生諸君に建築の専門性は求めません。建築分野志望以外の学生、公務員志望の学生、デザイナー志望の学生など多様な価値観と人脈をつくる傾聴力が身につきます。なぜなら、休校・廃校になる小中学校は、毎年なんと500校にのぼるからです。この社会的資産を活用して何か付加価値を作り出せるか、というアイデアも必要です。これはどの業界に進んでも必ず役に立つ力です。

プロジェクトに取り組むことで身につく力

社会人基礎力のほか、マネジメント能力や傾聴力、主体性、発信性、人を巻き込む力、状況把握力、健康管理能力、創造力が、身につきます。



平成30年4月26日
徳島大学COCプラス推進本部

お問い合わせ・エントリーシート提出先

徳島大学COCプラス推進本部

徳島大学常三島キャンパス内 地域創生・国際交流会館3階(地域創生課内) 担当:川崎/森脇
TEL:088-656-9885 FAX:088-656-9880 MAIL:coc-plus@ml.tokushima-u.ac.jp